

平成28年1月21日

事業経過報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

都道府県教育委員会等名 群馬県教育委員会
 所 在 地 群馬県前橋市大手町1-1-1
 代表者職氏名 教育長 吉野 勉

平成27年度英語教育強化地域拠点事業における事業経過計画書を提出します。

1. 事業の実施期間

委託を受けた日 ～ 平成28年3月31日

2. 強化地域拠点の学校名

<前橋拠点>

ふりがな	ぐんまけんりつ しぶかわじょしこうとうがっこう	ふりがな	あらい としお
学校名	群馬県立渋川女子高等学校	校長名	新井 登志雄
ふりがな	まえばしりつ だいいちちゅうがっこう	ふりがな	なかむら かずお
学校名	前橋市立第一中学校	校長名	中村 和雄
ふりがな	まえばしりつ もものいしょうがっこう	ふりがな	みやざき とおる
学校名	前橋市立桃井小学校	校長名	宮崎 徹
ふりがな	まえばしりつ じょうなんしょうがっこう	ふりがな	ありさか こういちろう
学校名	前橋市立城南小学校	校長名	有坂 浩一郎
ふりがな	まえばしりつ ちゅうおうしょうがっこう	ふりがな	たけい ともこ
学校名	前橋市立中央小学校	校長名	武居 朋子

<嬭恋拠点>

ふりがな	ぐんまけんりつ つまごいこうとうがっこう	ふりがな	とつか やすまさ
学校名	群馬県立嬭恋高等学校	校長名	戸塚 泰聖
ふりがな	つまごいそんりつ つまごちゅうがっこう	ふりがな	ちだ こういち
学校名	嬭恋村立嬭恋中学校	校長名	地田 功一
ふりがな	つまごいそんりつ とうぶしょうがっこう	ふりがな	こぐれ やすのり
学校名	嬭恋村立東部小学校	校長名	木檜 康則
ふりがな	つまごいそんりつ せいぶしょうがっこう	ふりがな	かねこ けんじ
学校名	嬭恋村立西部小学校	校長名	金子 健司

<沼田拠点>

ふりがな	ぐんまけんりつ ぬまたじょしこうとうがっこう	ふりがな	わかい あきら
学校名	群馬県立沼田女子高等学校	校長名	若井 彰
ふりがな	ぬまたしりつ ぬまたちゅうがっこう	ふりがな	おおたけ たかお
学校名	沼田市立沼田中学校	校長名	大竹 孝夫
ふりがな	ぬまたしりつ ぬまたひがししょうがっこう	ふりがな	こばやし たかよし
学校名	沼田市立沼田東小学校	校長名	小林 高義
ふりがな	ぬまたしりつ ぬまたきたしょうがっこう	ふりがな	ほしの こうじ
学校名	沼田市立沼田北小学校	校長名	星野 浩司

3. 研究内容

(1) 研究開発課題

「コミュニケーションツールとしての英語力と自律的な英語学習態度を育成するため、小中高一貫した学習目標の設定及び評価、言語活動を中核に据えた指導方法、指導体制、教育課程に関する研究開発」を行う。

(2) 研究の概要

「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」に基づき、以下の取組を行う。

- ① 小中高一貫した学習到達目標を設定し、教師の指導・評価の改善を行う。また、児童生徒がグループによる学び合いや学習方法の習得を通じて、自律的に英語学習に取り組もうとする態度を育成する。特に、評価については定期考査やパフォーマンステストの改善・開発を行い、自律的な学習態度の育成については、家庭学習や系統的な辞書指導について研究する。
- ② 小学校1年生から英語教育を系統的に導入し、低学年では、裁量の時間を活用した英語に触れる機会を充実させる。また、言語活動を中核に据えた教育課程を編成し、中学年では、「活動型」における音への慣れ親しむ活動を充実させるとともに発音と綴りの関係の学習を導入する。高学年では、教科としての学習を通して、自分や身の回りの出来事を表現するのに必要な基本的な語彙・表現の習得と英語で自分の気持ちや身の回りの出来事を伝え合う表現の能力の向上を図る。中学校では、ペア・グループによる協同学習を中核に据えた言語活動主体の授業を行う。また、英語で英語の授業を進める指導の在り方を研究する。高等学校では、現代社会の諸問題などを扱った題材を基に、ディスカッションやディベートを中核に据えた言語活動を各学年に設定し、的確に情報や考えなどを伝え合う高度なコミュニケーション能力を育成する。
- ③ 小中高等学校を通じて、郷土の歴史文化について英語で表現できる児童生徒を育成する。

(3) 現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

<小学校>

- 県内小学校の8割近くの学校が、「Hi, friends!」を主な教材として使用し、外国語活動に取り組んでいる。
- 指導に当たっては、9割近くの学校が、ALT等を活用している。
- 「外国語活動の授業が楽しい」(児童の88%)
- 「外国語活動は将来役に立つと思う」(児童の89%)
- 「聞く」、「話す」に加えて、英語を「読む」、「書く」への興味を持つ児童が見られる。
- 学習内容が物足りない、あいまいと感じている高学年児童が見られる。
- 活動に消極的な高学年児童が一部に見られる。
- 教員間、学校間、地域間で、指導計画や教材の整備状況、指導方法の水準等に格差が見られる。
- 英語の専門ではない多くの担任教員が、英語の指導に不安を抱え、外国語活動の授業を行っており、ALT等に任せっきりになっている様子も見られる。

<中学校>

- 言語活動が重視され、生徒同士のペアワークやALTとの対話等が行われている。
- 基礎的な語彙や英文を定着させるための「繰り返しの学習」に工夫が見られる。
- 「授業の半分以上を、生徒が英語で活動している学校」(中学校の57%)
- 「英語の授業がよくわかる」(生徒の74%)
- 「英検3級程度以上又は相当の英語力を有すると考えられる生徒の割合」(生徒の40%)
- 「校区内の小学校と情報交換等の小中連携を実施した」(中学校の65%)
- コミュニケーション能力の向上に向けた授業改善、教師の指導力の向上が必要である。
- 「英語を用いて何ができるようになったか」よりも、「文法や語彙等の知識をどれだけ身に付けたか」という観点の授業や評価が見られる。

<高等学校>

- 言語活動が重視され、自分の考えを英語で自由に発表し合う活動や、生徒同士のペアワークを中心にした授業が行われている。
- 「授業中(コミュニケーション英語I)の発話の半分以上を英語で行っている」(教員の77%)
- 「授業(コミュニケーション英語I)の半分以上を、生徒が言語活動を行っている」(教員の65%)
- 「CAN-DOリストにより学習到達目標を設定している学科数」(全学科の95%)
- 「英検準2級程度以上または相当の英語力を有すると考えられる生徒の割合」(生徒の21%)
- 生徒が英語を使って、実際にコミュニケーションを行う機会が不足している授業が見られる。
- 教科書の内容や文法事項を理解させることが中心の授業が見られる。
- ペーパーテストのみで評価する学校が多く見られ、スピーキングテスト等のパフォーマンステストを実施する学校がまだ少ない状況が見られる。

これまで、本県では、県内の各地域において、英語教育の推進に係る研究開発を実施するとともに、県全体で成果等を共有し、指導の改善、充実に生かせるよう取り組んできた。そのような取組は、本県の小中高一貫した英語教育を推進するに当たって大きな成果となり、子供たちの英語によるコミュニケーション能力の向上に寄与した。その一方で、上記に示したような課題が各校種で見られる。そこで、本事業における研究開発課題への取組を通じて、本県の英語教育の課題の解決や国の示す英語教育改革推進計画に基づく新たな英語教育の推進を目的とし、研究開発

を進めていきたいと考えている。

実施にあたっては、一部の地域による先進的な研究開発ではなく、県内全域で共通の研究開発課題による拠点事業の推進を計画しており、文部科学省の事業による指定地域3地域、県単独の事業による指定地域2地域、計23校（平成27年度は21校）が、地域や児童生徒の実態を踏まえた上で、同時に事業を進めている。

②研究仮説

コミュニケーションツールとしての英語力育成のために、バランスよく技能を習得していくことに配慮しながら、各学校段階で以下の技能や研究開発課題に重点を置き、拠点間で連携協力して研究を進めることで、段階的・効果的に英語力や自律的な学習態度を育成していくことができると考える。

<各校種の重点>

校種	身に付けさせたい技能や資質等	研究開発課題や主な取組
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことや身近な事柄を英語で表現する能力 ・身の回りの英語に対する興味関心 ・英語の発音と綴りの関係の理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の早期化（3・4年活動型） ・英語の教科化（5・6年教科型） ・発音と綴りの関係の指導 ・小中共通の言語活動（小中連携）
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや意見を、英語を用いて、分かりやすく、相手に伝えるための能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・協同学習を中核に据えた言語活動 ・英語で行う英語の授業づくり ・家庭学習、辞書活用などの学習方法の指導（中高連携）
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の意見に対してその場で反論したり的確に情報を整理して表現したりする技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・協同学習を中核に据えた言語活動 ・家庭学習、辞書活用などの学習方法の指導（中高連携）
共通	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら目標を設定したり、学習方法を選択したり、自分の課題に応じて自発的に英語学習を行ったりしようとする自律的な学習態度 ・グローバル化に対応した教育環境づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中高連携 ・学習到達目標の設定と評価 ・組織的な指導体制の充実

③研究成果の評価方法

- ・英語能力判定テストの実施

小学校で、英語を学んだ生徒の中学校入学後の英語力の現状の把握と伸長の検証に用いるとともに、次年度の指導改善及び研究の修正の資料とする。

- ・質問紙調査の実施

児童生徒の自律的な学習態度について検証する。学習態度については、特に、辞書の使用や家庭学習の方法や内容、英語学習に対する情意面の調査を行う。

また、教師の英語学習や指導に対する意識についても調査を実施する。特に、協同学習や小中高連携した指導の在り方、学習到達目標の設定と活用に関する意識の高まりを検証する。

・外部試験と質問紙調査の実施計画

年次（年度）	外部試験	質問紙
一年次（H26）	中1～3	小3～小6
二年次（H27）	中2	小3～中3、高校生、教員
三年次（H28）	中1、中3	小3～中3、高校生、教員
四年次（H29）	中1～3	小3～中3、高校生、教員

（4）研究開発型

	開始学年及び週当たり授業時数コマ			
	第一年次（H26）	第二年次（H27）	第三年次（H28）	第四年次（H29）
① 小学校 外国語活動型	第3学年 1コマ	第3学年 1コマ	第3学年 1コマ	第3学年 2コマ
② 小学校 教科型	第 学年 コマ	第5学年 2コマ	第5学年 2コマ	第5学年 2コマ

(5) 研究計画

※「カリキュラム研究開発チーム」

県総合教育センター内に設置し、教材開発等の中核として、本事業の研究開発に関わるため、研究計画に記載する。

※各年次及び校種の重点については、【 】内に示す。

<p>第一年次【研究開発課題に基づくカリキュラム開発準備及び指導・研究体制の確立】</p> <p>カリキュラム研究開発チーム 【H27年度の本格実施に向けたカリキュラムの準備】</p> <p>小学校の教科化や早期化、協同学習や学習到達目標に関する先進的な取組に関する情報収集及び以下の指導案及び教材の開発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校1・2年生の裁量の時間を活用した英語に触れる活動（10時間程度） ・小学校3～6年生の音と綴りの関係の学習（主にモジュールを活用） ・小学校3・4年生の外国語活動型（週1時間） ・小学校5・6年生の教科型（週1時間） ・地域題材を活用した独自単元及び自分や身近な事柄を英語で表現する能力を高める show and tell などの言語活動案 ・家庭学習、辞書活用に関わるガイダンス資料 <p>○小学校【外国語活動型の授業実践及び文字指導に関する試行開始】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校3・4年生で「Hi, friends!」を用いて外国語活動型の授業実践を行う。 ・小学校5・6年生で、文字の指導を導入する。 ・小学校5・6年生で、自分や身近な事柄を英語で表現する能力を高める show and tell などの言語活動の単元を計画し、授業実践を行う。 ・音と綴りの関係の指導方法について拠点内研修を行う。 ・専科教員を活用した効果的な指導体制の実践研究を行う。 <p>○中学校【言語活動や家庭学習の各校の課題把握と学習到達目標作成】</p> <p>以下の点について指導上の課題を把握し、次年度に向けた準備と試行を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な言語活動と考えや気持ちを伝え合うなどのより発展的な言語活動の計画・実施状況 ・プレゼンテーションを取り入れた言語活動及び英語で行う授業の実施状況 ・ペア・グループ活動の実施状況 ・家庭学習の内容や頻度、授業中の学習内容や活動との関連性 ・辞書指導の状況 ・教科書以外の英文を扱った学習や活動の状況 ・生徒の英語力について現状把握（外部試験及び質問紙調査）を行う。 ・中学校英語部会（中英研）と連携し、学習到達目標設定及び評価に関する情報収集を行うとともに、各校で試作する。 ・協同学習・家庭学習の在り方について拠点内研修を行う。 <p>○高等学校【英語による言語活動の充実と学習到達目標の設定についての研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」及び「英語表現Ⅰ・Ⅱ」について効果的な指導法を研究する。 ・ペア・グループ活動の課題を把握するとともに、協同学習を取り入れた効果的な言語活動の在り方について研究する。
--

- ・生徒の実態に応じた学習到達目標の設定と活用の仕方について、中学校と連携を図りながら研究する。

第二年次【学習到達目標の作成及びグループによる協同学習を中核に据えた指導方法の研究】

○カリキュラム開発チーム【学習到達目標作成支援及びグループによる協同学習モデル開発】

- ・群馬県版小学校英語教育カリキュラムの開発
- ・研究校の実践授業分析（カリキュラムの修正・改善）
- ・小学校3～6年生の学習評価資料作成
- ・中学校の家庭学習、辞書活用に関わるガイダンス指導用資料等の作成
- ・小中連携教材や小中共通の言語活動の指導用ガイダンス資料の開発

○小学校【群馬県版小学校英語教育カリキュラムに基づく実践研究】

- ・群馬県版小学校英語教育カリキュラムに基づく授業実践
（3、4年生は外国語活動、5、6年生は英語科として実施する）
- ・補助教材の効果的な活用
- ・授業公開の実施（小中高の連携）
- ・評価についての研究
（身に付けさせたい力を明確にした学習到達目標の作成、評価方法の開発、パフォーマンスや調査等による評価の実施、通知表や指導要録の記載についての研究）
- ・校内の学習環境の整備
- ・児童や教員等の実態調査に関するアンケートの実施と分析

○中学校【学習到達目標に基づく授業改善及びを中核に据えた言語活動の実践研究】

- ・学習した表現を使って自分の意見や考えなどを伝え合う言語活動の充実
- ・英語で行う効果的な授業の在り方についての実践研究
- ・授業公開の実施（小中高の連携）
- ・英語能力判定テストの実施と分析
- ・生徒や教員等の英語学習に対する質問紙調査の実施と分析
- ・学習到達目標（試案）の修正と改善
- ・身に付けさせたい力を明確にした上でのパフォーマンステストの実施
- ・定期テストへのパフォーマンステストの導入

○高等学校【学習到達目標に基づく授業改善及び協同学習を中核に据えた言語活動の実践研究】

- ・学習到達目標を達成するための指導についての実践研究
- ・自分の考えを英語で自由に発表し合う活動や、生徒同士のペアワークを中心にした授業実践
- ・プレゼンテーション能力を高めることに重点を置いて、協同学習を取り入れた言語活動の実践を行う。
- ・授業公開の実施（小中高の連携）
- ・学習到達目標を踏まえた、年間指導計画の見直し
- ・スピーキングテスト等のパフォーマンステストの計画的な実施
- ・生徒や教員等の英語学習に対する質問紙調査の実施と分析

第三年次【小中高一貫した学習到達目標に基づく評価の開発及び家庭学習に関する研究】

○カリキュラム開発チーム【小中連携教材及び学習到達目標に基づく評価と家庭学習モデルの開発】

- ・小中連携教材や小中共通の言語活動の開発を行う。
- ・学習到達目標に基づく評価に関するガイダンス資料を作成する。
- ・家庭学習、辞書活用に関するガイダンス資料の改善を図る。

<p>○小学校【学習到達目標の作成及び発音と綴りの関係を基にした系統的な文字指導の実践研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校3～6年生の評価に関する実践研究を行う。 ・学習到達目標を作成し、設定した目標に基づいた指導改善及び家庭学習の在り方についての研究を行う。 ・実態に応じた学習形態に応じて、発音と綴りの関係の指導等を行う。 ・協同学習を取り入れた言語活動に関する実践研究を行う。
<p>○中学校【小学校英語の教科化に対応した言語活動及び評価や家庭学習に関する実践研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科型の学習を踏まえた中学校の言語活動及び学習到達目標の改善を行う。 ・学習到達目標を基にした、授業（協同学習を取り入れた言語活動）、家庭学習及び評価の改善に関する実践研究を行う。 ・定期考査及びパフォーマンステストに関する実践研究を行う。
<p>○高等学校【学習評価の改善についての研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期考査の改善及びパフォーマンステストに関する実践研究を行う。 ・観点別評価について研究する。 ・効果的な家庭学習について実践研究する。
<p>第四年次【学習到達目標・評価の改善及び研究開発課題の検証・総括】</p>
<p>○カリキュラム開発チーム【学習到達目標に基づく英語指導・学習方法（群馬モデル）の完成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・群馬モデルの完成及び拠点等での伝達・研修を実施する。 ・協同学習を取り入れた言語活動を視点に指導及び評価について情報交換・研修を行う（中高合同）
<p>○小学校【学習到達目標に基づく評価方法及び家庭学習に関する実践研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各校で試作した学習到達目標の情報交換及び拠点別（小中合同）の研修を行う。 ・1・2年生の英語に触れる時間（10時間程度）、3・4年生の外国語活動型及び5・6年生の教科型の教材・指導案の改善及び総括を行う。
<p>○中学校【協同学習を取り入れた言語活動を中核に据えた指導及び評価方法の確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションを活用した言語活動及び定期テストを含めた評価方法に関する実践研究及び総括を行う。 ・協同学習を取り入れた言語活動を視点に指導及び評価について情報交換・研修を行う（中高合同）
<p>○高等学校【協同学習を取り入れた言語活動を中核に据えた指導及び評価方法の確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーションを活用した言語活動及び定期テストを含めた評価方法に関する実践研究及び総括を行う。 ・協同学習を取り入れた言語活動を視点に指導及び評価について情報交換・研修を行う（中高合同）

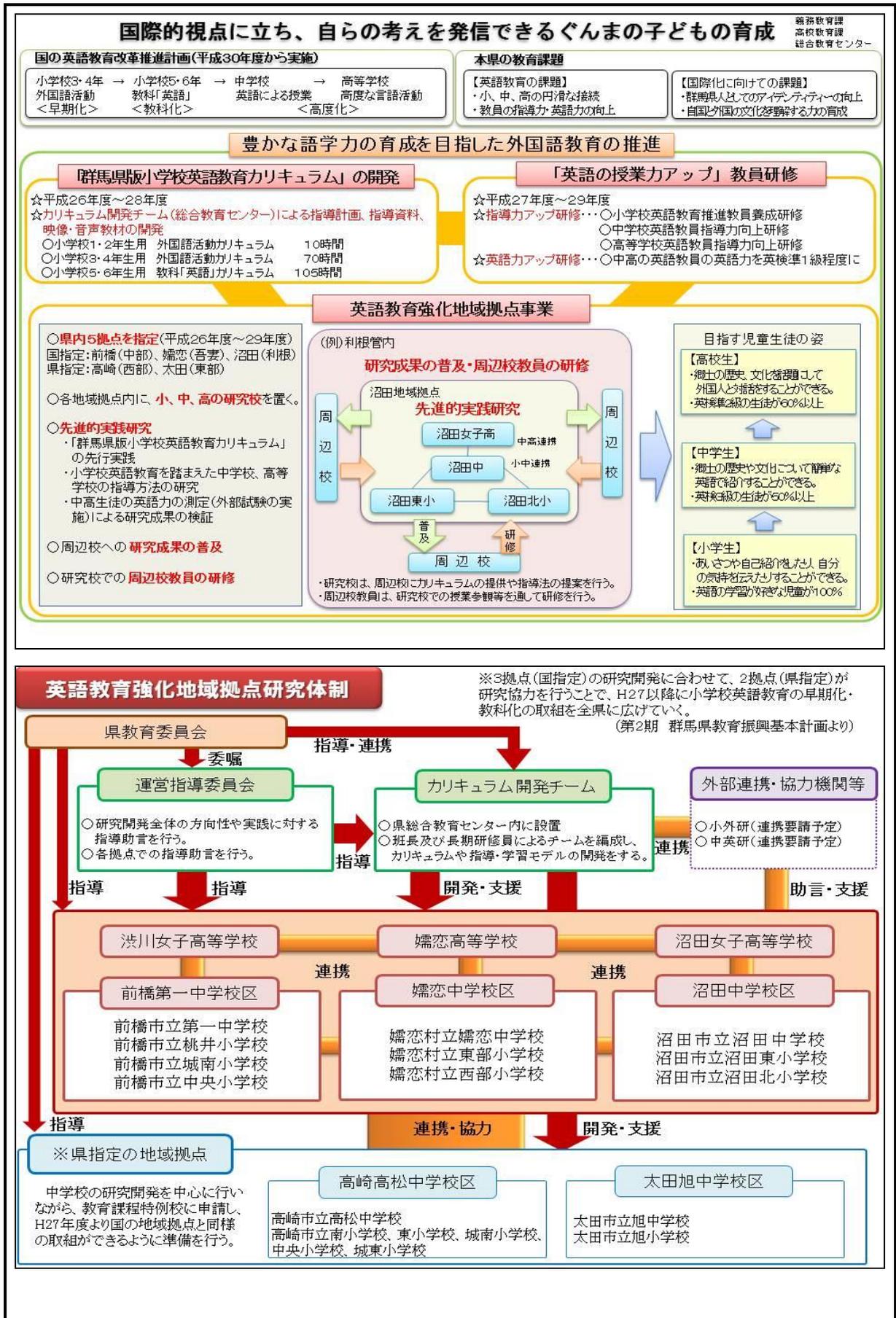
（6）評価計画

<p>第一年次【研究開発課題に基づくカリキュラム開発準備及び指導・研究体制の確立】</p>
<p>○小学校【外国語活動型の授業実践及び文字指導に関する試行開始】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問紙調査（3～6年生及 10月実施）
<p>○中学校【言語活動、家庭学習の各校の課題把握と学習到達目標作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問紙調査（1～3年生及び教員対象 10月実施）

<ul style="list-style-type: none"> ・外部試験（1～3年生対象 10～11月実施） <p>○高等学校【言語活動、家庭学習の各校の課題把握と学習到達目標作成】</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・質問紙調査（1～3年生及び教員対象 6月実施） ・外部試験（1～3年生対象 5月実施）
<p>第二年次【学習到達目標の作成及びグループによる協同学習を中核に据えた指導方法の研究】</p>
<p>○小学校【群馬県版小学校英語教育カリキュラムによる実践研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問紙調査（3～6年生及び教員対象 年2回 1、3学期実施予定）
<p>○中学校【学習到達目標に基づく授業改善及び協同学習を中核に据えた言語活動の実践研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問紙調査（1～3年生及び教員対象 年2回 1、3学期実施予定） ・外部試験（2年生対象 10～12月実施）
<p>○高等学校【学習到達目標に基づく授業改善及び協同学習を中核に据えた言語活動の実践研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問紙調査（1～3年生及び教員対象 年2回 1、3学期実施予定） ・外部試験（1～3年生対象 実施時期は未定）
<p>第三年次【小中高一貫した学習到達目標に基づく評価の開発及び家庭学習に関する研究】</p>
<p>○小学校【学習到達目標の作成及び発音と綴りの関係を基にした系統的な文字指導の実践研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問紙調査（3～6年生及び教員対象 年2回 1、3学期実施予定）
<p>○中学校【小学校英語教科化に対応した言語活動及び評価や家庭学習に関する実践研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問紙調査（1～3年生及び教員対象 年2回 1、3学期実施予定） ・外部試験（1、3年生対象 10～12月実施）
<p>○高等学校【中学校と連携した言語活動及び評価や家庭学習に関する実践研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問紙調査（1～3年生及び教員対象 年2回 1、3学期実施予定） ・外部試験（1～3年生対象 実施時期は未定）
<p>第四年次【学習到達目標・評価の改善及び研究開発課題の検証・総括】</p>
<p>○小学校【学習到達目標に基づく評価方法及び家庭学習に関する実践研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問紙調査（3～6年生及び教員対象 年2回 1、3学期実施予定）
<p>○中学校【協同学習を取り入れた言語活動を中核に据えた指導及び評価方法の確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問紙調査（1～3年生及び教員対象 年2回 1、3学期実施予定） ・外部試験（1～3年生対象 実施時期は未定）
<p>○高等学校【協同学習を取り入れた言語活動を中核に据えた指導及び評価方法の確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質問紙調査（1～3年生及び教員対象 年2回 1、3学期実施予定） ・外部試験（1～3年生対象 実施時期は未定）

4. 研究組織

(1) 研究組織の概要



(2) 運営指導委員会

①活動計画

<各拠点に対して>

運営指導委員会は、県英語教育連絡協議会（5月と2月に開催予定）と同日開催とし、運営指導委員は、年2回の運営指導委員会に出席し、各拠点地域の実施状況や課題等について指導助言を行う。必要に応じて、2学期に実施予定の各研究校における授業公開に参加し、授業を通じた研究推進の状況についても指導助言を行う。

<カリキュラム開発チームに対して>

カリキュラム開発チームは、運営指導委員会に参加し、そのときにカリキュラム開発チームに対しても、開発計画や開発した教材や指導案等について指導助言を行う。

5. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・地域拠点ごとの連携体制の整備 ・本年度の研究開発課題や計画の共通理解 ・校内研究組織の整備、学校ごとの研究計画の立案 ・各拠点地域担当者会議の実施 	
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回県英語教育連絡協議会 ・授業実践 	第1回運営指導委員会
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・各拠点地域担当者会議の実施 ・各拠点地域における授業公開（小中高） （2学期実施の管内における公開授業のプレ授業） 	
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践 ・周辺校（各拠点地域）への研究成果の発信 ・児童生徒、教員への質問紙調査の実施（1回目） 	
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の研究推進の総括 ・各拠点地域担当者会議の実施 ・各研究校における校内研修の実施 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践 	
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・各拠点地域担当者会議の実施 ・各拠点地域における授業公開（小中高） ・研究校における授業公開に基づく教員研修の実施（小学校） 	
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・授業実践 ・英語力判定テスト（中学校2年生予定） ・周辺校（各拠点地域）への研究成果の発信 	
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期の研究推進の総括 ・各拠点地域担当者会議の実施 ・授業実践 	

1月	・授業実践	
2月	・第2回県英語教育連絡協議会 ・各拠点地域における授業公開（小中高） ・本年度の研究推進の総括	・第2回運営指導委員会
3月	・県英語教育連絡会議 ・次年度の研究開発の準備	
<p>【その他の取組】</p> <p>カリキュラム開発チームの取組として、県総合教育センター内で教材・指導案等の作成を行う。必要に応じて、地域拠点指定校を訪問し情報・意見収集を行ったり、開発したカリキュラムの検証を行ったりする。</p> <p>県単独の事業による指定地域2地域（高崎市、太田市）においても、文部科学省指定の拠点地域と共通の研究開発課題による拠点事業の推進を計画している。実施にあたっては、地域や児童生徒の実態を踏まえた上で進めていく。</p>		

6. 各拠点地域における進捗状況・課題

(1) 前橋拠点

①現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

【小学校】

3・4年生の児童は外国語活動の授業に対して意欲を持って取り組んでいる様子が見え始めた。5・6年生についても絵本を使った指導を行うことで、児童は英語の絵本がもつ繰り返し表現や英語独特のリズムについて親しむことができている。また、文字指導としては簡単な文字の学習（なぞり書き、写し書きなど）を取り入れることにより、児童の文字に対する興味関心を高めることができている。特配教員が英語コーディネーターとして担任とALTをつなぐことにより、授業の打合せ等を円滑に行い、それぞれの役割を明確にしたTT授業を実施することができている。また、教室をはじめ、廊下や階段などの掲示物を整え、学習環境を整備している。県カリキュラム開発チームが作成した教材を基に、児童の実態に合わせて修正や工夫をしながら、よりよい教材を作成することができた。

しかし、教科型英語における評価の在り方についてはパフォーマンステストなどの評価方法をどのように実施し、評価に結びつけていくのか明らかにしていく必要がある。また、学習到達目標「CAN-DO リスト」を設定し児童生徒が身につける英語力を明確にし、教師の指導方法や授業改善に結びつけていく必要もある。

平成27年度学校教育の指針（群馬県教育委員会）では、外国語活動における指導の重点として、「英語の音声や表現に十分触れさせながら、英語の特徴に気付かせる活動を繰り返し行うこと」や「自分の思いを英語で表現できた達成感を味わえるように、コミュニケーションを図る楽しさを感じさせる活動を計画的に行うこと」を掲げている。それを受けて、平成27年度まえばし学校教育充実指針改訂版では、外国語教育の目指す方向性として、「相手意識を持ち、自分の思いや考えを伝え合う必要感のある場面設定を工夫することで、互いに楽しさを味わえる授業づくりを推進すること」を掲げている。そして取組例として、「相手意識をもたせ、必要感のある

場面設定を工夫した授業づくり」と「小中連携を意識し、校種間の学習内容の状況把握」を取り上げている。

以上のことを評価の研究や「CAN-DO リスト」の設定とともに行うことで、研究開発課題である「コミュニケーションツールとしての英語力と自主的・自律的な英語学習態度を育成するため、小中一貫した学習目標の設定及び評価、協同学習を中核に据えた言語活動や家庭学習、指導体制、教育課程に関する研究開発」に迫りたい。

【中学校】

平成27年度学校教育の指針（群馬県教育委員会）では、外国語における指導の重点として、「音読や対話練習、語のつながりに注意して書く活動など、基礎的な言語活動を継続的に行うこと」や「既習の表現を使って意見や考えなどを伝え合う言語活動と到達目標を踏まえたパフォーマンステストを計画的に行うこと（授業中の75%を言語活動に）」を掲げている。それを受けて、平成27年度まえばし学校教育充実指針改訂版では、外国語教育の目指す方向性として、「相手意識を持ち、自分の思いや考えを伝え合う必要感のある場面設定を工夫することで、互いに楽しさを味わえる授業づくりを推進すること」を掲げている。そして取組例として、「相手意識をもたせ、必要感のある場面設定を工夫した授業づくり」と「小中連携を意識した校種間の学習内容の状況把握」を取り上げている。

以上のことを踏まえ、研究開発課題である「コミュニケーションツールとしての英語力と自主的・自律的な英語の学習態度を育成するため、小中一貫した学習目標の設定及び評価、協同学習を中核に据えた言語活動や家庭学習、指導体制、教育課程に関する研究開発」に迫りたい。ペアやグループによる考えや気持ちを伝え合う活動やプレゼンテーション活動など、発展的な言語活動の実践を行うことにより、生徒が積極的に英語を用いて活動するようになった。中学校の教員が小学校の授業を見ることで、小学校での外国語活動の取組や児童の実態について理解を深めることができた。また、拠点校連絡会議での情報交換や小学校の授業参観等を通して、小学校での外国語活動の学習を踏まえた効果的な指導方法について、具体的な取組の方向性を明らかにすることができた。そして、全学年において外部試験（英語能力判定テスト）を用いた英語活用力調査を行うことで、教師にとっては生徒の英語力について現況把握をすることができた。また、生徒にとっても英語力を客観的に知ることができた。指導体制としては、本年度より教科部会を校時表に組み入れて定期的に教科部会を開催していくことで、各学年の情報交換や研究の方向性について話し合うこととした。

中学校の課題としては、自分の考えや気持ちを伝え合うコミュニケーション活動や Show & Tell などの発表活動において、書いた原稿を読むだけの活動になってしまうなど、文字に頼り過ぎているという課題が見られる。即時的な発話能力の育成に向けては、文字を介さずに対話をする活動や即興的な発話を促す活動を取り入れていく必要がある。また、単元ごとの学習到達目標の達成に向けて、単元末の言語活動やパフォーマンステストを計画的に実施するとともに、単元を通じた言語活動や帯活動を取り入れていながら、4技能のバランスよい育成を図り複数の技能を統合した言語活動を充実させていく必要がある。さらに、授業を英語で行うためには、教師の英語運用能力の向上が不可欠であり、生徒にとってのよき英語話者としてのモデルとなる必要がある。授業とリンクした家庭学習を課したり、ペアやグループによる協同的な学習活動を積極的に取り入れたりすることにより、児童生徒が主体的に学習に取り組めるようにする必要がある。外部試験を用いた英語活用力調査の結果を生かしていくことも考えられることから、調査結果の分析方法や活用方法についても研究を進めていく必要がある。高校の授業参観や協議会を行うことで小中高の連携も進めていく必要がある。

②研究仮説

小中連携を図り、到達目標を基にした指導と評価の研究を進め、英語力の研究開発課題を解決していくことで児童生徒のコミュニケーションツールとしての英語力や自主的・自律的な学習態度を育成していくことができるであろう。

③研究成果の評価方法

学習内容やコミュニケーションを行う上での意識について質問紙調査を行い、児童・生徒の自主的・自律的な学習態度について検証していく。中学校については外部試験（英語能力判定テスト）を実施することで英語力を把握していくとともに指導の改善を図っていく。

また、教師に対しても英語学習や指導に対する意識を高めるために質問紙調査を実施することで指導のあり方に関する意識の高まりを検証する。

②研究計画

○第一年次～第四年次、校種別

【小学校】

学習到達目標の作成及び評価の研究

- ・小学校3・4年生で、Hi, friends!を用いて外国語活動型の授業実践を行う。
- ・小学校5・6年生で、自分や身近な事柄を英語で表現する能力を高める言語活動の単元を計画し、授業実践を行う。
- ・パフォーマンステストや評価問題を作成実施する。
- ・評定につなげる評価の研究を行う。
- ・担任が英語で指示ができるようにするためにクラスルームイングリッシュ研修を行う。
- ・児童の自主的・自律的な学習態度を調べるために質問紙調査を行う。

【中学校】

言語活動、家庭学習の課題把握と協同学習についての研究

- ・基礎的な言語活動と考えや気持ちを伝え合うなど、より発展的な言語活動を行う。
- ・基礎的・基本的な力をつけるため帯活動を行う。
- ・英語で授業を進めることで英語使用場面となるようにする。
- ・外部試験（英語能力判定テスト）を行い、生徒の英語力について現状把握をすることで指導に生かしていく。
- ・生徒の自主的・自律的な学習態度を調べるために質問紙調査を行う。
- ・高校との授業参観や協議会を通して情報交換を行う。

○平成27年度の進捗状況・課題

【小学校】

- ・パフォーマンステスト等計画的に実施している。
- ・今年度より数値による評価を行っている。他の教科同様前橋では、B規準で評価をしている。基本的には、群馬県英語教育開発カリキュラムの評価規準を基に評価しているが、A規準、B規準が混在しているため、精査しながら評価を行っている。
- ・担任が英語で指示ができるようにするためにクラスルームイングリッシュ研修を各学校で行っている。特に校内研修の時間を使い、特配教員から担任の先生に効果的なクラスルームイ

ングリッシュの活用の仕方を説明したり、模擬授業をしたりしている。

【中学校】

- ・英語で授業を進め、必要感のある場面設定で意味のあるコミュニケーション活動が増えている。また教師の英語でのアドバイスもより具体的になってきている。「振り返り」の場面では、教師による賞賛・アドバイスを行うとともに、生徒には「目当てに沿った振り返り」を行わせている。
- ・基礎的・基本的な力をつけるため帯活動を行っている。特に導入の段階で、スモールトークなどを行い、自然な流れの中でテーマをもとに生徒が話す活動が導入されている。
- ・外部試験（英語能力判定テスト）を12月に行った。1月に結果が分かるので、生徒の英語力について昨年度の結果と比較することで指導に生かしていく。
- ・高校との授業参観や拠点内会議を通して情報交換を行った。特に今年は、小学校・中学校の教員が渋川女子高校を訪問し、授業参観するなど積極的に取り組んでいる。また中・高の連携を考え、拠点内会議では、中学校の教員と高校の教員が積極的に情報交換を行った。また小学校・中学校の公開授業では、高校の先生にも参加していただき、意見をいただいた。

③評価計画

○第一年次～第四年次、校種別

【小学校】

外国語活動・教科型の授業実践及び評価についての実践研究

- ・質問紙調査（3～6年生及び教員対象 9月～10月実施）

【中学校】

学習到達目標に基づく授業改善及び共同学習を中核に据えた言語活動の実践研究

- ・質問紙調査（1～3年生及び教員対象 9月～10月実施）
- ・外部試験（英語能力判定テスト）（1～3年生対象 12月実施）

○平成27年度の進捗状況・課題

【小学校】

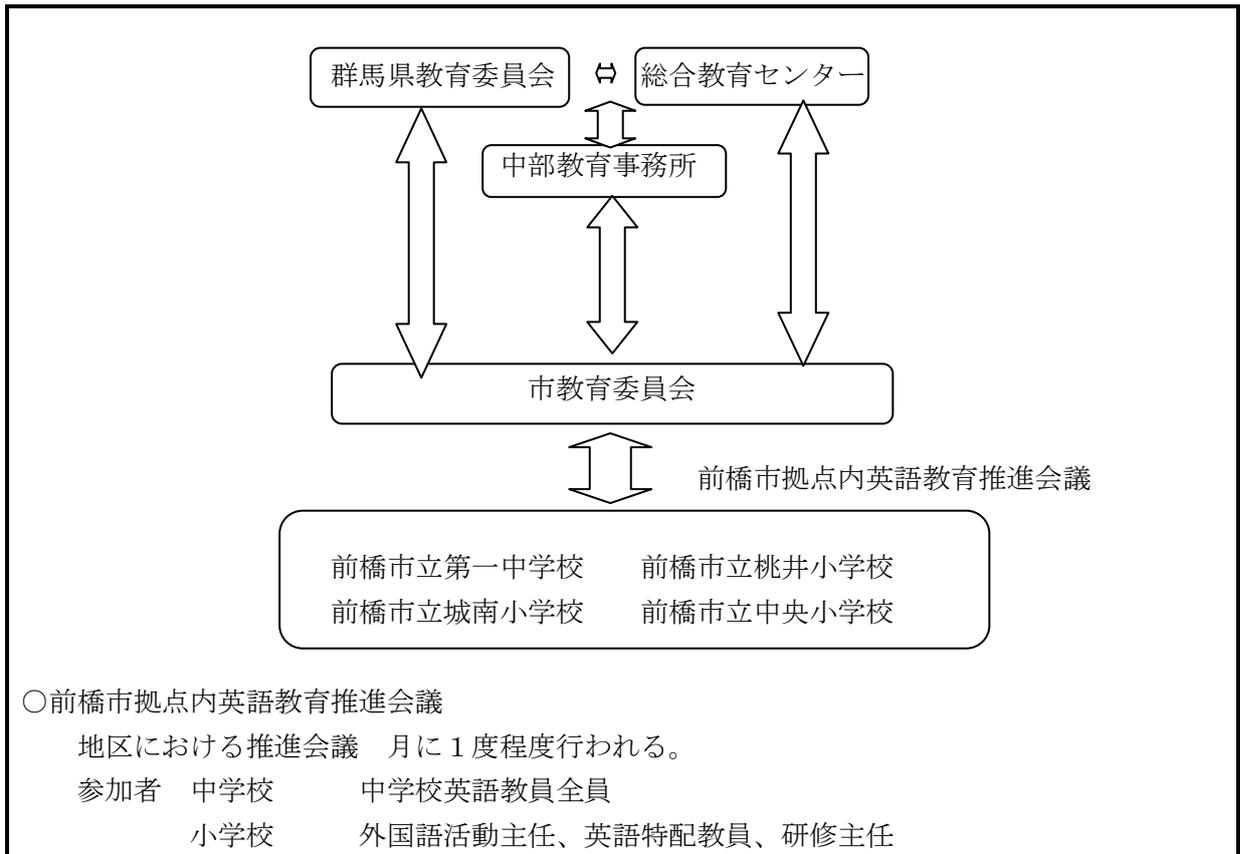
- ・児童の自主的・自律的な学習態度を調べるために質問紙調査を行った。すべての項目で英語に興味・関心を持って取り組んでいることがわかるが、学年が上がると「当てはまる」項目の割合が少なくなり、「どちらかと言えば当てはまる」の割合が高くなってきている。また課題として、高学年で「英語を話すことは好きですか」と「英語を話すとき、間違いを恐れず、積極的に話すようにしていますか。」の「どちらかと言えば当てはまらない」の項目の割合が高くなってきている。

【中学校】

- ・生徒の自主的・自律的な学習態度を調べるために質問紙調査を行った。小学校同様学年が上がると「当てはまる」や「どちらかと言えば当てはまる」割合が少なくなり、「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」割合が高くなってきている。特に課題となる点は、「英語を話すことは好きですか。」「英語を話すとき、間違いを恐れず、積極的に話すようにしていますか。」「英語を書くことが好きですか。」の項目で「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」割合が高くなってきている。

④. 研究組織

<研究組織の概要>



<運営指導委員会活動計画>

<各拠点に対して>

運営指導委員会は、県英語教育連絡協議会（5月と2月に開催予定）と同日開催とし、運営指導委員は、年2回の運営指導委員会に出席し、各拠点地域の実施状況や課題等について指導助言を行う。必要に応じて、2学期に実施予定の各研究校における授業公開に参加し、授業を通じた研究推進の状況についても指導助言を行う。

<カリキュラム開発チームに対して>

カリキュラム開発チームは、運営指導委員会に参加し、そのときにカリキュラム開発チームに対しても、開発計画や開発した教材や指導案等について指導助言を行う。

○平成27年度の進捗状況・課題

すべての拠点校で公開授業を行った。前橋市教育委員会では、今年は桃井小学校での拠点内授業を主催し、指導主事が指導講評を行った。また第一中学校の公開授業では、中部教育事務所が主催し、指導講評も中部教育事務所の指導主事が行った。中央小学校と城南小学校の公開授業では、群馬県総合教育センターが主催し、総合教育センターの指導主事が指導講評を行った。指導案に関しては、前橋市教育委員会の指導主事と中部教育事務所の指導主事が指導を行った。また小学校には、カリキュラム開発チームが参加し、授業参観をするとともに、カリキュラム案について再考した。

⑤. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組	運営指導委員会
4月	17日(金) 外国語主任会(中学校) 英語教育強化地域拠点事業の紹介(第一中)	前橋市教育委員会
	28日(火) 外国語活動主任会(小学校) 英語教育強化地域拠点事業の紹介(桃井小、城南小、中央小)	前橋市教育委員会
5月	14日(木) 群馬県英語担当指導主事会議	群馬県教育委員会
	15日(金) 第1回前橋市拠点内英語教育推進会議 (研究内容の確認)	前橋市教育委員会
6月	30日(火) 第1回群馬県英語教育連絡協議会	群馬県教育委員会
7月	8日(水) 第2回前橋市拠点内英語教育推進会議 (研究取組の検討、指導案の検討)	前橋市教育委員会
8月	7日(金) 第3回前橋市拠点内英語教育推進会議 (指導案の検討)	前橋市教育委員会
9月	29日(火) 第4回前橋市拠点内英語教育推進会議 (指導案の検討)	前橋市教育委員会
	質問紙調査実施 (小学校3学年～中学校3学年児童生徒、担任)	群馬県教育委員会
10月	15日(木) 第一中学校 授業公開	中部教育事務所
	23日(金) 中央小学校 授業公開(県内公開)	群馬県総合教育センター
11月	24日(火) 桃井小学校 授業公開(拠点内授業公開)	前橋市教育委員会
	25日(水) 城南小学校 授業公開(県内公開)	群馬県総合教育センター
12月	11日(金) 第6回前橋市拠点内英語教育推進会議 (今年度の成果と課題、来年度の方向性) 外部試験(英語能力判定テスト) 中学校1年生～3年生対象	前橋市教育委員会
1月	13日(水) 群馬県英語担当指導主事会議	群馬県教育委員会
	21日(木) 全国連絡協議会(文科省)	文科省
2月	9日(火) 第7回拠点内英語教育推進会議 (研究のまとめ)	前橋市教育委員会
	10日(水) 第2回県英語教育連絡協議会	群馬県教育委員会
3月	17日(木) 第3回県英語教育連絡協議会	群馬県教育委員会
【その他の取組】※あれば記入		

(2) 孀恋拠点

①現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

○アンケート結果より

本地域小中学校の児童生徒に対して、英語授業への意識の実態を把握するとともに4年間の研究推進に当たっての検証・評価材料として位置付けるために、アンケート調査を実施した。

【英語に関するアンケート結果】 数字：% H26・10 小3～6年(312名) 中1・2(146名)対象

1 英語の授業は好きですか。						
	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年
好き	83	56	46	58	22	34
少し好き	11	39	42	37	38	45
あまり好きではない	4	4	7	3	33	16
好きではない	1	1	4	1	7	5

2 英語を話せるようになりたいですか。				
	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年
なりたい	77	58	61	64
少しは話せるようになりたい	16	34	37	31
あまり話せるようになりたくない	4	1	3	2
話せなくてもよい	3	6	0	2

3 「英語の授業」で①～⑦について、どう思いますか。							
中学1年							
	①英語の歌	②英語を使ったゲーム	③英語を話す	④英語を聞く	⑤外国人と英語で交流する	⑥英語の文を書く	⑦英語の文や物語を読む
好き	17	61	39	49	31	18	25
少し好き	40	28	30	28	25	29	28
あまり好きではない	28	10	20	21	36	32	34
好きではない	15	1	11	2	8	21	13
中学2年							
	①英語の歌	②英語を使ったゲーム	③英語を話す	④英語を聞く	⑤外国人と英語で交流する	⑥英語の文を書く	⑦英語の文や物語を読む
好き	57	61	27	23	23	24	27
少し好き	31	30	42	47	42	31	38
あまり好きではない	8	8	27	26	24	36	30
好きではない	4	1	4	4	11	9	5

英語に関するアンケートから、本地域の児童生徒の英語授業に関する実態は、以下のように捉えることができる。

(小学校)

- ・英語の授業は好きと答える児童が多く、意欲・関心は高い。
- ・英語の活用では、全般的に英語が話せるようになりたいという意欲を持っている児童が多く、高学年になるにしたがってその傾向が強くなることが分かる。

(中学校)

- ・英語授業への意欲・関心は、学年差があり、小学校段階に比べて低い傾向にある。
- ・英語授業の内容では、英語の歌、ゲームを取り入れた授業への意欲は高いが、話す、聞く、書く、読む学習への意欲は低く、その中でも、英語の文を書く学習への意欲が最も低いなど苦手意識をもっている。

○授業実践より

(小学校)

低学年の児童は、英語の音楽やリズムに合わせて楽しく表現活動に取り組むとともに、ALTの英語に耳を傾け、ゲーム活動にも意欲的に取り組むことができる。「英語は楽しい」と毎月1時間の授業を待ち望む声がたくさん聞けるなど、英語に触れたいという意欲の高まりも見られる。

中学年の児童は、英語の音楽を使ったリズム活動やカードを使ったゲーム活動に意欲的に取り組み、ALTがゲームの説明や指示をする英語に耳を傾けながら楽しく学習に取り組むことができる。また、アルファベットにも興味・関心を持ち、簡単な英単語と絵を描きカードを作成する活動にも意欲的に取り組み、色あざやかで工夫されたカードを作成することができる。その際、アルファベットの大文字、小文字なども四線を意識しながら丁寧に書く姿も見られる。

高学年の児童は、身近なことについて英語を使って表現する活動に意欲的に取り組むことができる。簡単な表現（I want to～）を使ったゲーム活動では、今までの既習事項を生かした発展的な表現の工夫が見られるなど、英語を使って様々なことを表現したいという意欲にもつながっている。

また、書く活動への興味・関心も高く、英語を使った昔話の絵本づくりでは、既習事項を生かし表現を工夫するとともに、英語の綴りも大文字、小文字を意識しながら丁寧に作品づくりに取り組み、低学年への読み聞かせ活動にも意欲的に取り組んでいる。さらに、高学年の児童には英語を使って様々なことを表現したいという「コミュニケーションツール」としての英語学習の発展性が見られる。

(中学校)

英語を使った授業を基本としているが、理解力や定着度については個人差が大きいため、日本語を交えて説明する場面もある。音声による表現活動には、意欲的に取り組むが、自由英作文など、自分の考え、思い、願いを複数挙げてまとまりのある文章を書くことや、まとまりのある英文を読んで大意を要約する学習には苦手意識を持っている生徒が多いなど、「読むこと」「書くこと」の学習において対する課題がある。また、家庭学習では、英語の自主学習に取り組む生徒は少なく、取り組んでいる生徒の学習状況を見ても、単語練習、定型表現を視写など基礎的な学習の復習への取組が多く、語彙力や英語表現力を高めるための発展的な学習への取組になっていない現状がある。

上記の実態や課題から、コミュニケーションツールとしての英語力を高めることと、自律的な学習態度を身に付けさせることが必要であると考え。そのためには、これまで行ってきたコミュニケーションを図ることの楽しさを体験させたり、その大切さを知ったりすることの指導をより一層充実させることが重要である。また、英語のアンケートにおいて、「英語の授業は好きですか」という質問に対して、小学校6年生と中学校1年生の回答に差が見られることから、校種間の連携をこれまで以上に図っていくことが必要と思われる。

②研究仮説

コミュニケーションツールとしての英語力育成のために、バランスよく技能を習得していくとともに、コミュニケーションを図ることの楽しさや大切さを知ったり、コミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図ることに配慮したりしながら、各学校段階で以下の技能や研究開発課題に重点を置き、連携・協力して研究を進めることで、段階的・効果的に英語力や自律的な学習態度を育成していくことができると考える。

<各校種の重点>

校種	身に付けさせたい技能や資質等	研究開発課題や主な取組
小学校	自分や身近な事柄を英語で表現する能力 show and tellで伝える技能 身の回りの英語に対する興味・関心 英語の音と綴りの関係の理解	英語の早期化（3・4年活動型） 英語の教科化（5・6年教科型） 音と綴りの関係の指導 小中共通の言語活動
中学校	分かりやすく、効果的に相手に伝えるためのプレゼンテーション技能	協同学習を中核に据えた言語活動 英語で行う英語の授業づくり 家庭学習、洋書・辞書活用などの学習方法の指導（中高連携）
高等学校	相手の意見に対してその場で反論したり的確に情報を整理して表現したりする技能	協同学習を中核に据えた言語活動 家庭学習、洋書・辞書活用などの学習方法の指導（中高連携）
共通	自ら目標を設定したり、学習方法を選択したり、自分の課題に応じて自発的に英語学習を行ったりしようとする自律的な学習態度 グローバル化に対応した教育環境づくり	小中高連携 学習到達目標の設定と評価 指導体制

③研究成果の評価方法

英語力を測定する外部試験を実施し、英語力の現状把握と伸長の検証に用いるとともに、次年度の指導改善及び研究の修正の資料とする。また、質問紙調査を行い、児童生徒の自律的な学習態度について検証する。学習態度については、特に、辞書の使用や洋書の活用、家庭学習の方法や内容、コミュニケーションを図る場面でのコミュニケーション方略について調査を行う。

また、教師の英語学習や指導に対する意識についても質問紙調査を実施する。特に、協同学習や小中高連携した指導の在り方、学習到達目標の設定と活用に関する意識の高まりを検証する。

＜外部試験と質問紙調査の実施計画＞

年次（年度）	外部試験	質問紙
2年次（H27）	小6、中1～3、高校生実施	小6～中3、実施教員

②研究計画

○第一年次～第四年次、校種別

第一年次

○小学校【外国語活動型の授業実践及び文字指導に関する試行開始】

- ・小学校3・4年生でHi, friends!を用いて外国語活動型の授業実践を行う。
- ・小学校5・6年生で、文字の指導を試行する。
- ・小学校5・6年生で、自分や身近な事柄を英語で表現する能力を高めるshow and tellなどの言語活動の単元を計画し、授業実践を行う。
- ・フォニックスの指導方法について研修を行う。
- ・専科教員を活用した効果的な指導体制の実践研究を行う。

○中学校【言語活動、家庭学習の各校の課題把握と学習到達目標作成】

以下の点について指導上の課題を把握し、次年度に向けた準備と試行を行う。

- ・基礎的な言語活動と考えや気持ちを伝え合うなどのより発展的な言語活動の計画・実施状況
- ・プレゼンテーションを取り入れた言語活動及び英語で行う授業の実施状況
- ・ペア・グループ活動の実施状況
- ・家庭学習の内容や頻度、授業中の学習内容や活動との関連性
- ・辞書指導・活用の状況
- ・教科書以外の英文を扱った学習や活動の状況
- ・生徒の英語力について現状把握（外部試験及び質問紙調査）を行う。
- ・中学校英語部会（中英研）と連携し、学習到達目標設定及び評価に関する情報収集を行うとともに、試作する。
- ・協同学習・家庭学習の在り方、洋書の活用について研修を行う。

○高等学校【英語による言語活動の充実と学習到達目標の設定についての研究】

- ・「コミュニケーション英語Ⅰ・Ⅱ」及び「英語表現Ⅰ・Ⅱ」について効果的な指導法を研究する。
- ・ペア・グループ活動の課題を把握するとともに、協同学習を取り入れた効果的な言語活動の在り方について研究する。
- ・生徒の実態に応じた学習到達目標の設定と活用の仕方について、中学校と連携を図りながら研究する。

第二年次

○小学校【教科型の授業実践及びフォニックスを基にした系統的な文字指導の実践研究】

- ・3・4年生でHi, friends!を用いて外国語活動型の授業実践を行う。
- ・5・6年生で、教科型の授業実践を行う。
- ・1～6年生で、地域題材を扱った単元の授業実践や学校行事等と連携した英語に触れる時間を実施する。

- ・3～6年生で、フォニックスの指導を行う。
- ・専科教員を活用した効果的な指導体制の実践研究を継続する。
- ・モジュール学習を取り入れた教育課程の編成の準備と試行を行う。

○中学校【学習到達目標に基づく授業改善及び協同学習を中核に据えた言語活動の実践研究】

- ・プレゼンテーション能力を高めることに重点を置いて、協同学習を取り入れた言語活動の実践を行い、年間指導計画の見直しを行う。
- ・英語で行う効果的な授業の在り方について実践研究を行う。
- ・外部試験及び質問紙調査を基に、各拠点で重点課題を設定し、実践研究を進める。
- ・各校で試作した学習到達目標の情報交換及び研修を行う。
- ・ガイダンス資料を用いて、家庭学習、洋書・辞書活用の指導を行う。

○高等学校【学習到達目標に基づく授業改善及び協同学習を中核に据えた言語活動の実践研究】

- ・学習到達目標を達成するための指導について研究する。
- ・中学校と連携を図り、プレゼンテーション能力を高めることに重点を置いて、協同学習を取り入れた言語活動の実践を行う。
- ・学習到達目標を踏まえて、年間指導計画の見直しを行う。

第三年次

○小学校【学習到達目標の作成及びフォニックスを基にした系統的な文字指導の実践研究】

- ・3～6年生の評価に関する実践研究を行う。
- ・学習到達目標を作成し、設定した目標に基づいた指導改善及び家庭学習の在り方についての研究を行う。
- ・モジュール学習を取り入れたフォニックスの指導改善を行う。
- ・協同学習を取り入れた言語活動に関する実践研究を行う。

○中学校【小学校英語教科化に対応した言語活動及び評価や家庭学習に関する実践研究】

- ・教科型の学習を踏まえた中学校の言語活動及び学習到達目標の改善を行う。
- ・学習到達目標を基にした、授業（協同学習を取り入れた言語活動）、家庭学習及び評価の改善に関する実践研究を行う。
- ・定期考査及びパフォーマンステストに関する実践研究を行う。

○高等学校【学習評価の改善についての研究】

- ・定期考査の改善及びパフォーマンステストに関する実践研究を行う。
- ・観点別評価について研究する。
- ・効果的な家庭学習について研究する。

第四年次

○小学校【学習到達目標に基づく評価方法及び家庭学習に関する実践研究】

- ・各校で試作した学習到達目標の情報交換及び拠点別（小中合同）の研修を行う。
- ・1・2年生の英語に触れる時間（10時間程度）、3・4年生の外国語活動型及び5・6年生の教科型の教材・指導案の改善及び総括を行う。

○中学校【協同学習を取り入れた言語活動を中核に据えた指導及び評価方法の確立】

- ・プレゼンテーションを活用した言語活動及び定期テストを含めた評価方法に関する実践研究及び総括を行う。
 - ・協同学習を取り入れた言語活動を視점에指導及び評価について情報交換・研修を行う。
- (中高合同)

○高等学校【協同学習を取り入れた言語活動を中核に据えた指導及び評価方法の確立】

- ・プレゼンテーションを活用した言語活動及び定期テストを含めた評価方法に関する実践研究及び総括を行う。
 - ・協同学習を取り入れた言語活動を視점에指導及び評価について情報交換・研修を行う。
- (中高合同)

○平成27年度の進捗状況・課題

【小学校】

①進捗状況

- ・小中高一貫した目標の設定

小中高の12年間の英語教育を通して「どのような児童生徒に育てたいのか」など目標となる具体的な姿をCAN-DOリスト形式で設定したことにより、目指すべき児童生徒像をイメージしながら具現化に向けた授業実践に取り組むことができた。

- ・3・4年生での外国語活動型、5・6年生での教科型による授業実践

1・2年生では年間10時間程度、3・4年生では週1時間（外国語活動、活動型）、5・6年生では週2時間（英語科、教科型）、県作成カリキュラムに基づいた授業実践を行った。

その際、一単位時間の学習過程を

- ・「導入（ウォームアップ…あいさつ、フラッシュカード、歌、チャンツ 10分）」
- ・「活動（ゲーム活動 25分）」
- ・「まとめ（クールダウン…書く活動、自己評価、まとめ 10分）」

と設定し、授業のねらいを明確に提示し学習過程を意識した授業づくりを行った。

また、授業では、以下の点をポイントとして取り組んだ。

〈場面設定の重視〉

「英語を使ったコミュニケーション能力の育成」に向けては、学習する表現が日常生活のどのような場面で使われているかを児童に把握させることが定着につながると考えた。そこで、学級担任・ALTとの英語によるSmall talkを児童に聞かせ、「What did you hear?」と、聞こえた単語や表現を発表させる中で、「どのような場面で使う表現なのか」を「推測」させた。これにより、児童はコミュニケーションの場面を具体的にイメージしながら英語による表現活動に取り組むことができた。

〈コミュニケーションに必要な表現の活用〉

英語によるコミュニケーション活動では、英語の発話と発話を言葉によらないコミュニケーションの手段の活用が大切だと考えた。そこで、授業では、ジェスチャー、相づち、スマイル、アイコンタクトなど言葉によらないコミュニケーションの手段を取り入れ活動を行った。これにより、児童が動作を取り入れながら表情豊かに取り組むなど、英語によるコミュニケーションの楽しさを実感するとともに、幅を広げることもつながった。

〈賞賛・承認による意欲の向上〉

初めは英語に自信がなかった児童が、友達に「Good job!」、学級担任やALTに「Excellent!」とほめられることにより自信を持ち、自己肯定感を育成することができた。このことにより、「英語は楽しい」、「また使ってみよう」という、英語を使ってコミュニケーションを行おうとする意欲の育成にもつながった。このように、お互いにほめ合ったり、認め合ったりする活動を多く取り入れた授業実践により、温かい学級の雰囲気づくりとともに学級担任と児童との信頼関係が深まるなど、学級経営の充実に向けた効果も見られた。

・地域題材を扱った授業実践や学校行事と連携した英語活動

5年生「誕生日を尋ねよう」において、本地域周辺のイメージキャラクター「ぐんまちゃん」（群馬県）、「孀キャベちゃん」（孀恋村）、「ゆもみちゃん」（草津町）に設定した誕生日を尋ねていく学習、「ユニークピザをつくろう」では、東京都千代田区立小学校との農業交流体験で収穫した「じゃがいも」を具材としたオリジナルピザのトッピングを創作していく学習など地域題材を扱った授業実践を行った。さらに、5・6年生では、「英語版 上毛かるた」を活用し、友達に群馬県に行きたい場所を尋ね、その理由を答えるコミュニケーション活動を行った。また、校内学習発表会において、授業で学んだ英語を活用した「英語劇スイミー」を発表するなど学校行事と連携した英語活動を行った。

・フォニックスの指導

英語の音声と文字を結ぶフォニックスを「アルファベットの音読み」と捉え、4年生以上の学年で指導を行った。授業の学習過程の中に県作成の音と綴りのプリントや文部科学省作成の補助教材を学習する「音と綴りの時間」を10分間設定し、ALTが発音したアルファベットを声に出しながらぞり書きするなど、音読みを意識した指導を行った。また、県がフォニックスの指導用に作成した「ぐんまチャンツ」も活用し、楽しみながらアルファベットの音読みを学べる活動も取り入れた。

・モジュール学習を取り入れた教育課程編成の試行

毎日8:45～8:55の10分間を基礎学力の向上をねらいと位置付けた「トレーニングタイム」の中に、英語活動を加え実践を行った。1～6年生、週2日を英語活動の時間とし、1・2年生は担任とALTによるチームティーチング、3年生以上は担任による指導を行った。ねらいは、英語に慣れ親しむ活動を通して、英語への興味・関心を高めるとし、1・2年生は、英語の歌・チャンツなどのリズム活動、ゲーム活動を中心に、3年生以上は、県作成の音と綴りのプリントを中心に英語活動を行った。

・専科教員を活用した効果的な指導体制の実践研究

本地域に1名配置されている英語専科教員を「英語コーディネーター」と位置付け、本事業の英語教育推進リーダーとして英語教育の環境整備、教員の英語指導力の向上に向けた指導を行った。拠点校である東部小学校を基盤に西部小学校、孀恋中学校2校を兼務する配置計画を作成し、学校訪問により授業実践の支援や助言にあたった。また、小学校における授業の打ち合わせでは、新任ALTと教員とのパイプ役・調整役を務めるなど、コーディネーターとして責務を果たした。

・公開授業、授業研究会による英語の指導力向上に向けた研究

各校の校内研修と連携しながら、年間にわたり公開授業・授業研究会を計画的に実施した。公開授業に向けて、事前に指導主事の要請訪問を行ったり、校内研修への参加を要請

したりした。児童生徒のコミュニケーション力の育成に向けた共通した視点での話し合いを重ねたことにより、英語の指導法の改善や指導力の向上につながった。さらに、初めは不安を感じていた英語専門外の教員が、自分のアイデアを生かしながらALTとの打ち合わせに積極的に取り組むなど自信と意欲をもって英語の授業に臨む姿が多く見られるようになった。

- ・小中接続の取組

小学校6年児童全員に中学1年で使用する英語テキストを配布し、入学までにアルファベットの復習をしておくという課題の実践、中学校英語教員による小学校6年での授業交流など小中学校の円滑な接続に向けた実践を行った。特に、英語教員の交流では、小学校での授業実践が良い刺激となるなど、授業改善や指導法の向上への成果につながった。

- ・英語環境整備

毎日の学校生活の中で、児童の英語に触れる機会を増やすことが英語に慣れ親しむことにつながると考え、英語環境整備を行った。児童用玄関前のホールに英語コーナーを設け普段の授業の中で使う挨拶をはじめ、授業で扱った単語や既習表現を使ったゲームを掲示するなど児童が日常的に英語に接することができるように環境整備を行った。また、英語学習の専用教室「ABCルーム」を設置し、教員がMay I come in?とFree conversationを行いながら児童一人一人を教室に向かい入れ、英語学習への雰囲気作りを行いながら授業に取り組める環境づくりを行った。

②課題

- ・3・4年生での外国語活動型、5・6年生での教科型による授業実践

〈教員の英語指導力の向上〉

小学校英語の目指す授業像は、「学級経営を中心とした学級担任による授業づくり」にある。そのためには、英語専門外の教員が、いかに英語に対する自信を身に付け指導に当たることができるかがポイントとなり、その鍵となるのが英語力の向上にある。そこで、来年度は、公開授業、授業研究会の実践に加え、ALTや外部講師活用による継続的な英語研修などを実施し、教員の英語力の向上を図る実践研究に取り組んでいきたい。

〈ALTとの打ち合わせ時間確保及び有効活用〉

本地域では、小学校2校に対してALT1名の配置であり、週の前後半で任用している。そのため、授業の打ち合わせが放課後となり綿密な打ち合わせ時間が確保できていない現状にある。そこで、来年度は、配置形態を検討するとともに授業の空き時間を有効活用するなど、打ち合わせ時間の確保を図っていきたい。また、異国文化や伝統の知識・理解を深めるという観点からALTの特性、特技を生かした活用の在り方も検討していきたい。

【中学校】

①進捗状況

- ・小中高一貫した目標の設定

CAN-DOリスト形式で学習到達目標を設定したことにより、小中高の12年間の英語教育を通して「どのような児童生徒に育てたいのか」など目標となる具体的な姿をイメージしながら、授業実践に当たることができた。

- ・小学校での英語学習を踏まえた授業実践

小学校での学習の流れを継続するために、語彙や文法知識に関する学習の導入場面では

音声から入り最後に言葉でまとめる学習過程をとった。また、小学校英語で身に付けたジェスチャー、相づち、スマイル、アイコンタクトなどの言葉によらないコミュニケーションの手段を意識させ、活動にも取り組ませた。さらに、このようなコミュニケーション活動を中心とした学習過程をとったことにより、生徒は、英語学習への苦手意識をもつことなく意欲的に授業に取り組むことができた。

- ・共同学習を取り入れた言語活動の授業実践

授業では、一単位時間の中で生徒の言語活動が50%以上になるように授業実践を行った。ウォームアップでは、クリスクロスゲーム、ジェスチャーゲーム等を行い、挨拶や既習表現を扱った質問に答えさせるとともに生徒から教員へ質問させるなど、一方的な受け答えで終わらせず、アディショナルクエスチョンを行いコミュニケーション活動が広がるような指導に取り組んだ。また、学習形態では、ペアワークやグループワークを取り入れ「インプット」、「アウトプット」と同時に、「フィードバック」を行うことにより、コミュニケーションの幅を広げる共同学習の利点を生かした形態で授業実践を行った。

- ・生徒の英語力の課題解決に向けた実践

生徒の英語判定テストや質問紙法の結果を見ると、「話すこと」に関しては興味・関心が高く、コミュニケーション活動など意欲的に取り組むが、「書くこと」に関しては苦手意識を持っており、テストの点数も低い傾向にある。そこで、授業の中で、「書くこと」の力を身に付けるために全学年共通で「ディクテーション」に取り組んだ。授業のウォームアップの時間に、ALTが読んだ既習事項の英文を、生徒が書き取る活動を5分程度行った。自己採点后に正しい英文を練習するなど、ディクテーション用プリントやノートを活用し、「書く力」を身に付けるための指導を継続的に行った。また、2・3年生では、長期休業中を中心に、「英語日記」を書かせるなど、「書く力」を身に付ける学習に取り組ませた。

- ・ガイダンス資料を活用した家庭学習の取組

本校では、孺恋中学校の教育全般について紹介した資料「孺中ナビ」を全生徒に配布して活用を図った。その中の英語科の紹介では、英語学習内容、家庭学習法などを詳細に記してあり、新入学時のオリエンテーションで生徒に説明するとともに、日頃の家庭学習で活用するように指導を行った。家庭学習における英語科の取組では、2年生では、英語自主勉強ノートを準備し、英単語や英作文練習など毎日、英語に触れる機会を作るように取り組ませている。

- ・高校教員の交流による授業実践

連携型中高一貫校のメリットを活用し、毎週月曜日、高校の英語教員が中学校を訪問しティームティーチングによる指導を行った。また、単元によってクラスを習熟度別に3コースに分け、文法やスピーチ学習において個に応じたきめ細かな指導も行った。これにより、中高の教員の英語力の向上を図ることができ、同時に、生徒が高校の授業をイメージすることにもつながった。

②課題

- ・共同学習を取り入れた言語活動の授業実践

言語活動を中心とした授業づくりは、生徒の英語学習への意欲を高め、「聞く力」「話す力」を高め、コミュニケーション能力を伸ばすために有効である。また、ペアワークや

グループワークなど学習形態の工夫により、コミュニケーション活動における相手意識の向上につながった。さらに、「書く力」「読む力」を相乗的に伸ばすための学習過程の在り方、指導法について実践研究を進めていきたい。

・学習到達度目標CAN-DOリストの改善

小中の目標設定は、発達段階に応じた円滑な接続が可能であるが、中高は、進路の違いや学力差があるため、継続した目標設定が難しい現状にある。生徒の英語力、小・中・高の12年間で目指すべき児童生徒像などを検討し、CAN-DOリスト形式の学習到達度目標を再設定していきたい。

③評価計画

○第一年次～第四年次、校種別

第一年次 【研究開発課題に基づくカリキュラム開発準備及び指導・研究体制の確立】

○小学校【外国語活動型の授業実践及び文字指導に関する試行開始】

- ・質問紙調査（6年生及び教員対象 6月実施）

○中学校【言語活動、家庭学習の各校の課題把握と学習到達目標作成】

- ・質問紙調査（1～3年生及び教員対象 6月実施）
- ・外部試験（1～3年生対象 5月実施）

○高等学校【言語活動、家庭学習の各校の課題把握と学習到達目標作成】

- ・質問紙調査（1～3年生及び教員対象 6月実施）
- ・外部試験（1～3年生対象 5月実施）

第二年次 【学習到達目標の作成及びグループによる協同学習を中核に据えた指導方法の研究】

○小学校【教科型の授業実践及びフォニックスを基にした系統的な文字指導の実践研究】

- ・質問紙調査（3～6年生対象 6月実施）

○中学校【学習到達目標に基づく授業改善及び協同学習を中核に据えた言語活動の実践研究】

- ・外部試験（1～3年生対象 12月実施）
- ・質問紙調査（1～2年生対象 6月実施）

○高等学校【学習到達目標に基づく授業改善及び協同学習を中核に据えた言語活動の実践研究】

- ・外部試験（1～3年生対象 5月・12～1月実施）

第三年次 【小中高一貫した学習到達目標に基づく評価の開発及び家庭学習に関する研究】

○小学校【学習到達目標の作成及びフォニックスを基にした系統的な文字指導の実践研究】

- ・質問紙調査（6年生及び教員対象 6月実施）
- ・外部試験（6年生対象 1月実施）

○中学校【小学校英語教科化に対応した言語活動及び評価や家庭学習に関する実践研究】

- ・質問紙調査（1～3年生及び教員対象 6月実施）
- ・外部試験（1～3年生対象 5月・12～1月実施）

○高等学校【中学校と連携した言語活動及び評価や家庭学習に関する実践研究】

- ・質問紙調査（1～3年生及び教員対象 6月実施）
- ・外部試験（1～3年生対象 5月・12～1月実施）

第四年次 【学習到達目標・評価の改善及び研究開発課題の検証・総括】

○小学校【学習到達目標に基づく評価方法及び家庭学習に関する実践研究】

- ・質問紙調査（6年生及び教員対象 6月実施）
- ・外部試験（6年生対象 6月実施）
- 中学校【協同学習を取り入れた言語活動を中核に据えた指導及び評価方法の確立】
 - ・質問紙調査
 - ・外部試験（1～3年生対象 6月実施）
- 高等学校【協同学習を取り入れた言語活動を中核に据えた指導及び評価方法の確立】
 - ・質問紙調査
 - ・外部試験（1～3年生対象 6月実施）

○平成27年度の進捗状況・課題

○小中共通

①質問紙調査の実施

本地域小中学校の児童生徒に対して、英語授業への意識の実態を把握するために、質問紙調査を実施した。

【英語に関する質問紙調査結果】 数字：％ H27・6 小3～6年(304名) 中1・2(152名)対象

1 外国語活動、英語科の授業は好きですか。						
	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年
好き	72	64	54	37	51	26
どちらかと言えば、好き	22	22	30	31	28	23
どちらとも言えない	6	11	13	21	13	30
どちらかと言えば、嫌い	0	3	3	10	4	9
嫌い	0	0	0	1	4	12

2 英語が使えるようになりたいですか。						
	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年
そう思う	84	71	66	63	77	57
どちらかと言えば、そう思う	15	19	25	25	16	25
どちらかと言えば、そう思わない	1	6	3	9	0	10
そう思わない	0	4	6	3	7	8

3 英語は大切だと思いますか。						
	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年
そう思う	73	67	62	69	81	57
どちらかと言えば、そう思う	14	20	23	26	11	30
どちらかと言えば、そう思わない	1	4	4	3	5	7
そう思わない	0	2	2	1	3	3
分からない	12	7	9	1	0	3

4 「英語の授業」で次の内容は楽しいですか。

中学1年

	①英語の 歌	②英語の ゲーム	③英語 の発音	④友達と の会話	⑤ALT との会話	⑥教員と の会話	⑦外国のこ とを学ぶ
あてはまる	19	72	32	41	41	40	48
どちらかと言えば、あてはまる	17	20	40	42	23	22	27
どちらかと言えば、あてはまらない	21	4	20	7	29	28	15
あてはまらない	21	4	4	9	7	10	10
わからない	3	0	4	1	0	0	0
授業でやっていない	19	0	0	0	0	0	0
	⑧日本語と英語 の違いを知る	⑨英語で意見 を発表する	⑩英語で友達や先 生の意見を聞く	⑪絵本を聞 く	⑫文字や単 語を読む	⑬文字や単 語を書く	
あてはまる	41	26	24	34	40	38	
どちらかと言えば、あてはまる	32	29	14	34	38	40	
どちらかと言えば、あてはまらない	21	35	29	21	12	13	
あてはまらない	6	10	10	7	8	7	
わからない	0	0	4	4	2	2	
授業でやっていない	0	0	19	0	0	0	

中学2年

	①英語の 歌	②英語の ゲーム	③英語 の発音	④友達と の会話	⑤ALT との会話	⑥教員と の会話	⑦外国のこ とを学ぶ
あてはまる	5	53	12	14	22	11	23
どちらかと言えば、あてはまる	13	30	35	24	24	24	17
どちらかと言えば、あてはまらない	15	11	29	26	27	28	33
あてはまらない	15	3	19	28	16	17	16
わからない	9	3	5	7	8	10	7
授業でやっていない	43	0	0	1	3	10	4
	⑧日本語と英語 の違いを知る	⑨英語で意見 を発表する	⑩英語で友達や先 生の意見を聞く	⑪絵本を聞 く	⑫文字や単 語を読む	⑬文字や単 語を書く	
あてはまる	23	19	13	5	19	27	
どちらかと言えば、あてはまる	18	17	20	17	21	15	
どちらかと言えば、あてはまらない	30	26	40	18	41	35	
あてはまらない	23	29	17	15	15	16	
分からない	5	9	9	12	3	5	
授業でやっていない	1	0	1	33	1	2	

英語に関する質問紙調査から、本地域の児童生徒の英語授業に関する意識の実態は、以下のよう
に捉えることができる。

(小学校)

- ・英語の授業は好きと答える児童の割合は、低学年では高いが、学年が上がるにしたがって減少する傾向にある。
- ・英語の活用では、全般的に英語が話せるようになりたいという意欲や英語の大切さへの意識を持っている児童の割合が高い傾向にある。

(中学校)

- ・英語授業への意欲・関心は、学年による差が見られる。意欲・関心が低い学年であっても英語の大切さへの意識は高い傾向にある。
- ・英語授業の内容では、ゲームを取り入れた授業への意欲は高いが、他の内容に関しては、学年差が見られる。1年生では、友達との会話を中心に全般的に意欲は高いが、自分の考えを英語で発表することには苦手意識をもっている。2年生では、全般的に意欲が低く、特に、英語を話したり聞いたりすることに対して苦手意識をもっている。

【小学校】

①進捗状況

- ・英語の教科化に向けた評価の在り方の研究

外国語活動では3観点、英語科では中学校の英語科に準じる4観点の評価規準を設け、評価を行った。評価方法としては、外国語活動では、振り返りカード、観察を中心に、英語科では、振り返りを含めたパフォーマンステストを中心に行った。パフォーマンステストの実施は、「聞く」「話す」に関する評価を学級担任、ALT、英語コーディネーターとの一対一による英語によるコミュニケーション形式で行った。その際、学習した表現だけではなく、相づち、アイコンタクトなどの言葉によらないコミュニケーションの手段も取り入れながらコミュニケーション活動の一環として評価を行った。普段、おとなしく授業中にもあまり発言しない児童が、「先生と英語によるコミュニケーションができて楽しい。」という感想を寄せるなど、英語学習への意欲を高める効果も見られた。また、通知票への記載では、3・4年の外国語活動を3観点に基づいた文章表記で、英語科では、4観点に関する3段階評価を行い、指導要録においても評価を行った。

②課題

- ・パフォーマンステストの妥当性・信頼性・客観性

本年度は、パフォーマンステストをコミュニケーション形式で実施したことにより児童の英語学習への意欲を高めるなど成果を上げることができた。来年度は、パフォーマンステストが本時の学習のねらいに対する児童の達成状況を把握するために、妥当性・信頼性・客観性のある評価となっているかの検証を行い、さらに修正・改善していきたい。

【中学校】

①進捗状況

文法や単語などの基礎問題に加え、生徒の実態から英作文や長文読解などを取り入れた学習到達度確認テストに加え、スピーチやショーアンドテル、音読などによる評価を実施した。

スピーチでは、「書くこと」に関しては、教科書のモデル文を活用しながら既習事項の表現を入れ自分なりの思いや考えが表現されているか、「話すこと」に関しては、「アイコンタク

ト」「なめらかさ」「声量」「態度」の観点を相手に自分の思いを伝えるための工夫の観点からの評価を行った。ショーアンドテルでは、「話すこと」に関して、スピーチ後の友達からの質問に対して、相手に伝わるように分かりやすく答えているかなど即興性の面を中心に評価を行った。同時に、「聞くこと」に関して、友達のスピーチの概要や要点を適切に聞き取る観点から質問した生徒への評価も行った。音読では、「読むこと」に関して、文の意味内容を理解するとともに、「抑揚」、「イントネーション」、「速さ」などの観点からの評価を行った。

②課題

- ・パフォーマンステストを導入した評価の在り方

ALTとの一対一での会話などによるコミュニケーション活動を中心としたパフォーマンステストの在り方を実践研究していきたい。

④. 研究組織

○研究組織の概要

本年度、本研究校である孺恋村立西小学校、田代小学校、干俣小学校の3校が、「孺恋村立西部小学校」として統合された。そこで、「孺恋村英語教育連携会議」を再編し、各校の校内研修との連携を図りながら組織的に研究を進める体制を構築する。

- 構成員
 - ・群馬県教育委員会
 - ・吾妻教育事務所
 - ・事務局（英語コーディネーターが配置されている東部小）の校長、教頭、教務
 - ・各校の英語担当教諭（英語コーディネーターを含む）
- 事務局 孺恋村立東部小学校（英語コーディネーター配置校）
- 取組内容
 - ・研究推進の方向性、計画案の検討
 - ・英語の早期化・教科化、高度化に向けた授業実践計画の作成
 - ・小中高連携に向けた取組の検討
 - ・研究の検証・評価方法の検討

○運営指導委員会活動計画

<各拠点に対して>

運営指導委員会は、県英語教育連絡協議会（5月と2月に開催予定）と同日開催とし、運営指導委員は、年2回の運営指導委員会に出席し、各拠点地域の実施状況や課題等について指導助言を行う。必要に応じて、2学期に実施予定の各研究校における授業公開に参加し、授業を通じた研究推進の状況についても指導助言を行う。

<カリキュラム開発チームに対して>

カリキュラム開発チームは、運営指導委員会に参加し、そのときにカリキュラム開発チームに対しても、開発計画や開発した教材や指導案等について指導助言を行う。

⑤. 年間事業計画

月	強化地域拠点校の取組	運営指導委員会
4月	13日(月) 小学校外国語活動、英語科授業開始 21日(火) 第1回嬭恋村英語教育連携協議会 15:00 東部小 ・H27英語教育強化地域拠点事業の取組について ・各校の外国語活動、英語科への取組の情報交換 30日(木) 英語コーディネーターによる小中学校訪問開始 ・小学校における外国語活動・英語科授業の指導(校内研修参加) ・中学校における英語授業参観・指導 ・要請訪問(吾妻教育事務所から西部小学校へ)	
5月	22日(金) 第2回嬭恋村英語教育連携協議会 15:00 東部小 ・H27公開授業計画について ・学習到達度目標(CAN-DOリスト)について ・小学校における外国語活動、英語科の評価について ・各校の外国語活動、英語科への取組の情報交換	
6月	2日(火)授業公開①嬭恋中(拠点地域内) 8日(月)要請訪問(吾妻教育事務所から西部小学校へ) 9日(火)要請訪問(吾妻教育事務所から東部小学校へ) 15日(月)授業公開②西部小(拠点内) 24日(水)授業公開③東部小(拠点地域内) 下旬 小中学校児童生徒への質問紙調査(英語アンケート)実施 ・小3～中3児童生徒	30日(火)第1回群馬県英語教育連絡協議会(県庁)
7月	9日(木)第3回嬭恋村英語教育連携協議会 15:00 東部小 ・第1回群馬県英語教育連携協議会報告 ・英語アンケート結果について ・1学期の英語公開授業のまとめ ・中学校、高校の英語教育の高度化に向けた取組状況について	
8月	教員対象の研修会へ参加 校内研修の実施(県授業公開に向けた学習指導案検討)	
9月	18日(金)授業公開④西部小(拠点地域内) 28日(月)授業公開⑤東部小(拠点地域内)	
10月	5日(月)授業公開⑥嬭恋中(3年B組 指導者 宮崎治香)(拠点地域内) 22日(木)第4回嬭恋村英語教育連携協議会 15:00 東部小 ・2学期の英語公開授業について(成果と課題) ・新ALT配置変更について ・予算の支出について 27日(火)要請訪問(吾妻教育事務所から東部小学校へ)	
11月	10日(火)要請訪問(吾妻教育事務所から東部小学校へ) 25日(金)授業公開⑧東部小(クラス、授業者未定)	

(管内、研究指定地域、総合教育センター研修講座受講者)		
12月		
1月	校内研修の実施（校内研究紀要作成） 下旬 第5回嬭恋村英語教育連携協議会 15:00 東部小 ・本年度のまとめ、来年度の方向性について	21日（木）英語 教育強化地域 拠点事業全国 協議会 文科 省
2月		10日（水） 第2回群馬県 英語教育連絡 協議会 沼東 小、沼中
3月	校内研修の実施（成果と課題、まとめ）	
<p>【その他の取組】</p> <p>※地域拠点各小学校の第3・4学年については年間を通して週1時間の外国語活動を、第5・6学年については年間を通して週2時間の英語の授業実践を行う。</p> <p>※小学校第1・2学年については、裁量時間を活用して外国語に親しむ活動を年間10時間程度実施する。</p>		

(3) 沼田拠点

①現状の分析と仮説等

①現状の分析と研究の目的

【小学校】

児童は、外国語活動に対して好意的な印象を抱いており、役に立つと感じていて興味を持って取り組んでいる。平成25年度の全国のデータと比べ「英語が好き」という児童の割合は、どの学年でも高く、意欲的に取り組んでいることが分かる。「英語を勉強することを必要なこと」と肯定的にとらえている児童も多く、その主な理由として「海外に行ったときや、大人になったときに役立つ」「国際化が進むため英語が話せた方がよい」など、英語を使うことや外国の人たちと共に生きていく世の中を想定したものも多く見られ、学習の動機付けが機能し、前向きに学んでいる様子が見えてくる。

また、外国語に触れることで生活の中で新たな気付きがあったり、英語でのコミュニケーションに対して楽しさを感じたりしていることもわかる。これは、外国語活動の趣旨を踏まえた実践がなされているからだと考えられる。しかし、その一方で日常生活で必要性を感じないという回答もあった。それぞれの子供の受け止め方は様々だが、児童が主体的に取り組もうとする魅力的な活動を提示し、英語を使って友だちや先生、ALTとコミュニケーションをとる楽しさや達成感を味わわせていくことが大切である。

【中学校】

○主体的な学習態度について

小学校から外国語活動で英語に慣れ親しんでいるので、入学時から挨拶や日常会話における慣用表現については臆することなく口にすることができる。学年が上がるにつれ苦手意識をもつ生徒が増える傾向にあるが、英語学習の方法を系統的に指導したり、生徒が思わずやってみたくするような魅力

的な言語活動を取り入れたり、目当てを明確にした授業を行う中で「分かった」「英語でコミュニケーションできて楽しい」という体験や達成感を味わわせたりすることが大切である。また、授業終末の振り返りを確実に行き、その日に何が分かったかを生徒に実感させ、自主的に課題に取り組めるよう、授業と関連させた家庭学習の在り方を考える必要がある。さらに、主体的な学習態度を育成する上で、辞書指導と活用の機会を拡充することも視野に入れる必要がある。

○英語力について

本市で毎年市内中学校2年生を対象に行っているNRT標準学力検査の結果によると、全ての内容において全国平均を上回っており、良好な状況といえる。特に「書くこと」については全国正答率が大幅に上回っているが、これは毎年市内全中学校で行うスプリングコンテストへの各学校での取組が単語や基本文を書く力の定着に大きく影響している。反面、身に付けた知識を適切に使えていないという実態もある。「聞くこと」「話すこと」については、情報を正確に聞き取ったり、読み取ったりすることはできるが、情報をまとめて内容を理解した上で判断する問題では正答率が低い。まとまりのある英文を視点を示して読ませたり聞かせたりして、概要を理解するだけでなく情報を整理して活用する力を付ける必要がある。

○指導上の課題

知識の定着を目指した指導については、基礎基本を確実に身に付けられるよう様々な工夫をして取り組んでいる。しかし、その知識を活用して表現する活動に関しては、習得を目的とした活動が主になり、生徒の思考・判断・表現力等の育成をねらった表現活動については十分とは言えない状況である。身に付けた知識を活用して適切にコミュニケーションができる力を付けるための学習活動に取り組ませる必要がある。そして、その力をさらに伸ばすためのプレゼンテーションやその後の交流を通して、相手に分かりやすく伝える方法について考えさせたり、話し合わせたりするなどして、効果的なプレゼンテーションができるように指導を充実させる必要がある。辞書の活用については、教科書巻末にあるワードリストの活用が主で、あまり行われていないので、表現活動の際には積極的に辞書を使わせるようにし、生徒の主体的な学習を促すためのツールという視点で具体的な指導方法の改善を図る必要がある。

○学習到達目標の設定

CAN-DO型の学習到達目標は小学校で今年度設定予定である。(中学校ではすでに作成済みなので)小中高の連携を考え、どの時期にどのような力をどの程度まで身に付けさせるのかを明確にし、教師と児童生徒が共有するために早急に作成する必要がある。そのことによって、身に付けさせたい技能や態度を明確にした指導や学習を系統的・継続的に行ったり、目標に向けて児童生徒が自律的に学習を積み重ねたりすることができると思う。

②研究仮説

コミュニケーションツールとしての英語力育成のために、バランスよく技能を習得していくことに配慮しながら、各学校で以下の技能や研究開発課題に重点を置き、拠点間で連携協力して研究を進めることで、段階的・効果的に英語力や主体的な学習態度を育成していくことができると考える。

<各校種の重点>

校種	身に付けさせたい技能や資質等	研究開発課題や主な取組
小学校	自分や身近な事柄を英語で表現する能力 show and tell で伝える技能 身の回りの英語に対する興味関心 英語の音と綴りの関係の理解	英語の早期化(3・4年活動型) 英語の教科化(5・6年教科型) フォニックスの指導 小中共通の言語活動

中学校	分かりやすく、効果的に相手に伝えるためのプレゼンテーション技能	協同学習を中核に据えた言語活動 英語で行う英語の授業づくり 家庭学習、洋書・辞書活用などの学習方法の指導（中高連携）
共通	自ら目標を設定したり、学習方法を選択したり、自分の課題に応じて自発的に英語学習を行ったりしようとする主体的な学習態度 グローバル化に対応した教育環境づくり	小中高連携 学習到達目標の設定と評価 指導体制

③研究成果の評価方法

英語力を測定する外部試験を実施する。英語力の現状把握と伸長の検証に用いるとともに、次年度の指導改善及び研究の修正の資料とする。また、質問紙調査を行い、児童生徒の主体的な学習態度について検証する。学習態度については、特に、辞書の使用や家庭学習の方法や内容、コミュニケーションを図る場面での実態について調査を行う。

また、教師の英語学習や指導に対する意識についても質問紙調査を実施する。特に、協同学習や小中高連携した指導の在り方、学習到達目標の設定と活用に関する意識の高まりを検証する。

中学校については、4年間で中学校3年生の英語検定3級程度相当の生徒の割合を50%にすることを目指す。

<外部試験と質問紙調査の実施計画>

年次（年度）	外部試験	質問紙
1年次（H26）	中1～3実施	小3～小6実施、教員
2年次（H27）	中2、高校生実施	小3～中3実施、教員
3年次（H28）	小6、中1～3実施	小6～中3実施、教員
4年次（H29）	小6、中1～3実施、高校生実施	小6～中3実施、教員

②研究計画

〈第一年次～第四年次、校種別〉

○カリキュラム研究開発班【学習到達目標作成支援及びグループによる協同学習モデル開発】

- ・小学校3～6年生の評価方法に関する研究を行う。
- ・フォニックス教材の開発・改善を行う。
- ・学習到達目標作成の留意点やポイントを示した資料を作成する。
- ・家庭学習、洋書・辞書活用にかかわるガイダンス資料を活用した研修の実施協力
- ・プレゼンテーション能力を高める言語活動や協同学習にかかわるガイダンス資料を作成する。

○小学校【教科型の授業実践及びフォニックスを基にした系統的な文字指導の実践研究】

- ・3・4年生で、外国語活動型の授業実践を行う。
- ・5・6年生で、教科型の授業実践を行う。
- ・1～6年生で、地域題材や学校行事等と連携した活動を実施する。
- ・3～6年生で、フォニックスの指導を行う。
- ・コーディネーターを中心とした効果的な指導体制の実践研究を継続する。
- ・モジュール学習を取り入れた教育課程を編成し、実践を行う。

○中学校【学習到達目標に基づく授業改善及び協同学習を中核に据えた言語活動の実践研究】

- ・プレゼンテーション能力を高めることに重点を置いて、協同学習を取り入れた言語活動の実践を行い、年間指導計画の見直しを行う。
- ・英語で行う効果的な授業の在り方について実践研究を行う。
- ・外部試験及び質問紙調査を基に、各拠点で重点課題を設定し、実践研究を進める。
- ・各校で試作した学習到達目標の情報交換及び拠点別の研修を行う。
- ・ガイダンス資料を用いて、家庭学習、洋書・辞書活用の指導を行う。

〈平成27年度の進捗状況・課題〉

【小学校】

(1) 進捗状況

- ・3・4年生で、週1コマ（45分間授業）の外国語活動型授業実践実施
 - ※1コマ（45分間授業）＋（15分間×1回モジュール学習）
- ・5・6年生で、週2コマの教科型授業実践実施
 - ※1コマ（45分間授業）＋1コマ（15分間×3回モジュール学習）
- ・英語コーディネーターからのフェードアウトによる担任主導の授業実践（45分間授業）
 - ※準備は英語コーディネーターを中心に、担任、ALTとで打合せ実施
- ・モジュール学習を取り入れた教育課程編成
 - ※沼田東小学校：昼休み終了後に帯でモジュール学習（ステップアップタイム）設置
 - ※沼田北小学校：5校時終了後に帯でモジュール学習（いちごタイム）設置
 - ※両校ともほぼ担任主導による実践
 - ※準備は、英語コーディネーターとALTが行った。（クラスごとにボックス活用）
- ・教育センターカリキュラム案をベースにして、英語コーディネーターが沼田拠点の実態に合った内容に編集して活用した。
- ・『沼田大好き・ふるさと学習』と関連させた地域題材を生かした実践（道案内・ランチメニューづくり等）
- ・他教科や学校行事等と連携させた授業実践（総合的な学習の時間・校外学習との関連等）
- ・フォニックス指導から関連させた文字指導（5分以内程度で）
- ・沼田拠点 classroom English 系統表の活用（小3から中3まで）

(2) 課題

- ・担任主導による授業
- ・各学年に適した教材・教具の系統性
- ・英語コーディネーター配置なしの状態での授業準備
- ・45分間授業とモジュールとの関連
- ・モジュール学習の内容（H27年度は復習中心）
- ・英語コーディネーター、ALT、担任との打合せ時間の確保

【中学校】

(1) 進捗状況

- ・CAN-DO リストを活用しての振り返りカードや年間 CAN-DO チェック表の作成と活用
- ・授業を実際のコミュニケーションの場とした、英語で授業を行う効果的な授業実践
- ・生徒が英語を活用する言語活動を1授業の75%以上に設定
- ・言語活動の中に、即興的に英語を活用する場面の設定
- ・外部試験として英語能力判定テストの実施（第2学年で）

(2) 課題

- ・設定した目標が妥当であるかの検証
- ・全生徒に目標を達成させるための段階的な目標設定や系統的な指導の工夫
- ・コミュニケーション重視の指導内容と入試で求められる力が合致するかどうか。
- ・予算の関係で ICT の利用などが進められない。
- ・個に応じた指導充実のための TT 授業体制の確保
- ・各学年による即興的言語活動の系統性

〈平成 28 年度に向けた小中共同課題〉

- ・より適切な小中連携（出前授業など）
- ・コミュニケーションを意識させる言葉（会話するときのポイントや態度面）の系統性
- ・全校種一貫した小中高 CAN-DO リストの作成と活用
- ・即興的言語活動の系統性
- ・沼田拠点 classroom English 系統表の活用の継続

③評価計画

〈第一年次～第四年次、校種別〉

【学習到達目標の作成及びグループによる協同学習を中核に据えた指導方法の研究】

○小学校【教科型の授業実践及び系統的な文字指導の実践研究】

- ・質問紙調査、評価テスト

○中学校【学習到達目標に基づく授業改善及び協同学習を中核に据えた言語活動の実践研究】

- ・外部試験（2年生対象）

〈平成 27 年度の進捗状況・課題〉

【小学校】

(1) 進捗状況

- ・県内 5 拠点による質問紙調査の実施（3～6年生対象 7月実施）
- ・沼田拠点内による質問紙調査の実施（3～6年生対象 1月実施予定）
- ・単元の振り返りカードによる自己評価実施（単元全体で1枚なので、児童が見通しを持って学習に臨めたり、学習の積み上げを感じたりすることができた。）
- ・要録や通知表の評価について
 - ※中学年：3観点による記述式評価の実施
 - ※高学年：4観点によるABC評価の実施（小学校英語教育カリキュラム案によるA基準評価）

(2) 課題

- ・児童の実態に合ったパフォーマンステストやインタビューテスト、振り返りカードの内容等についての検証
- ・それぞれの観点を評価するのに適した評価方法の検証
- ・CAN-DO リストを活用した評価方法の検証

【中学校】

(1) 進捗状況

- ・県内 5 拠点による質問紙調査の実施（3～6年生対象 7月実施）
- ・沼田拠点内による質問紙調査の実施（3～6年生対象 1月実施予定）
- ・沼田中 2 年生による英語能力判定テストの実施（2年生対象 12月実施）
- ・計画的なパフォーマンステストの実施（特に中学 3 年では、複数の ALT を活用した「English

conversation circuit」実施

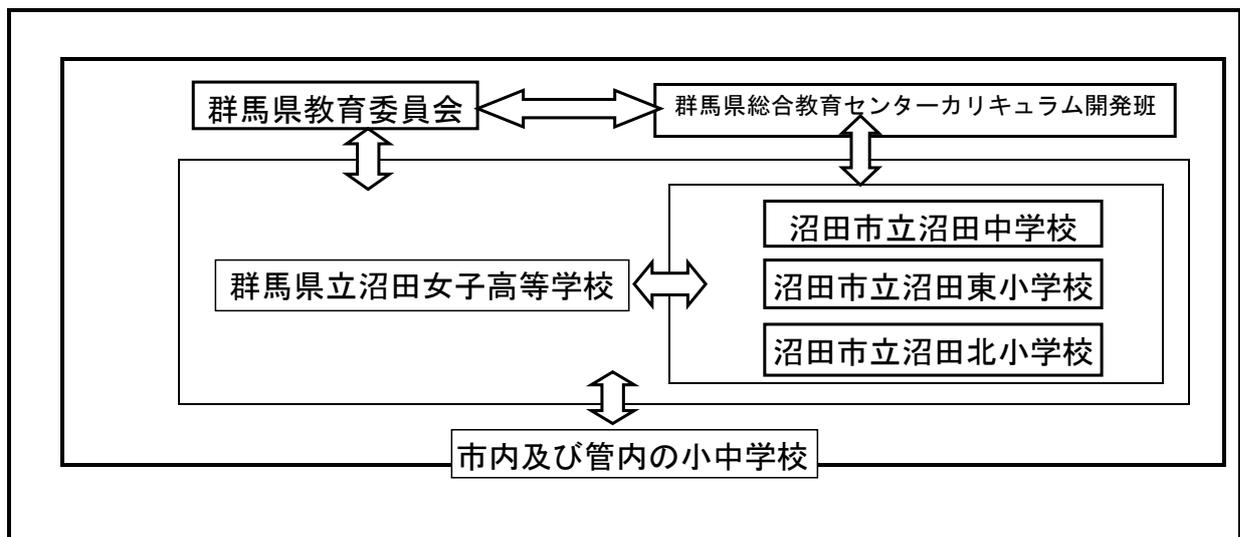
- ・沼田中 CAN・DO リストを活用した自己評価実施

(2) 課題

- ・パフォーマンステストにおける評価方法、評価規準の設定が難しい。
- ・3年間を見通したパフォーマンステストの計画が必要である。
- ・指導と評価の一体化を図っていく必要がある。

④. 研究組織

○研究組織の概要



○運営指導委員会活動計画

○活動計画

<各拠点に対して>

2学期に実施予定の各研究校における授業公開に参加し、授業を通じた研究推進の状況について情報交換を行う。

<カリキュラム開発チームに対して>

カリキュラム開発班が計画や開発した教材や指導案等について情報提供をする。

<拠点内の各校に対して>

月に一度連携協議会を開催し、それぞれの研究の進捗状況を確認したり、成果や課題を共有したりする。また、それに対して適宜指導助言をする。

授業公開の機会を生かした授業参観及び授業研究会を行い、情報交換や指導助言をする。

○平成27年度の進捗状況・課題

(1) 進捗状況

<各拠点に対して>

- ・県内拠点校授業公開に参加
- ・沼田拠点4校の授業公開に向けての通知作成と参加の呼びかけ

※連携協議会長名で作成

※利根沼田管内小中高へ発送

※県内拠点校へ発送（群馬県総合教育センター主催の授業公開）

<カリキュラム開発チームに対して>

- ・カリキュラム案をベースにして、沼田拠点の実態に合わせて編成し直した部分を、各学期終了後に情報提供した。

<拠点内の各校に対して>

- ・月に1度の「沼田市連携協議会」の実施（計8回）
 ※4/21、5/27、6/23、7/27、9/8、10/16、10/30、12/11）
- ・2学期実施授業公開に向けて、利根教育事務所と連携しての指導案検討会実施
 ※沼田市教委で3回実施
 ※利根教育事務所（さわやか相談）4回実施
- ・2/10第2回群馬県英語教育連絡協議会授業公開（3授業提供）に向けて、群馬県教育委員会と群馬県総合教育センター、利根教育事務所と連携しての指導案検討実施
 ※沼田東小学校・沼田中学校にて計8回実施

(2) 課題

- ・授業公開での運営の仕方（来賓対応、あいさつをしていただく方・司会者・指導助言者の決め方等）
- ・カリキュラム開発チームへの情報提供を早目に行う。
- ・高校との連携の仕方（小中高が義務教育課と高校教育課で管轄が違うため連携に難しい部分あり。）
- ・月1回の沼田市連携協議会の日程調整（できれば年間指導計画に位置付ける）
- ・沼田市連携協議会としての年間を通したためあてに対する共通理解

⑤. 年間事業計画

月	強化地域拠点の取組
4月 21(火)	第1回沼田市連携協議会（沼田東小学校にて） （モジュールの取組について・授業公開について・今年度の評価について・classroom English 系統表の活用について・小低学年の外国語活動について・H27年度予算の使い方について・4校からの情報交換）
5月 14(木)	第1回群馬県英語担当指導主事会議 （事業の推進について・第1回群馬県英語教育連絡協議会について・委託経費について）
25(月)	群馬県総合教育センター主任指導主事 沼田東小学校と沼田北小学校へ来校 （今年度の拠点事業の取組について等）
27(水)	第2回沼田市連携協議会（沼田北小学校にて） （来年度の時数について・授業公開授業者等について・評価決定について・中学校の授業改善について・小中高 CAN-DO リスト作成について・評価についての詳細を検討）
6月 23(火)	第3回沼田市連携協議会（沼田女子高校にて） （小学校通知表観点の表記について・授業公開指導案作成について・沼田女子高校授業公開 9月9日決定・沼田中英語能力判定テストについて・小中高 CAN-DO リスト作成について・

30(火)	<p>授業公開通知について・情報交換について)</p> <p>第1回群馬県英語教育連絡協議会 (英語教育の早期化・教科化・高度化を目指した英語授業についての説明・グループ別協議及び情報交換・指導助言)</p>
7月 3(金) 27(月)	<p>群馬県総合教育センター主任指導主事 沼田東小・沼田北小訪問</p> <p>第4回沼田市連携協議会(沼田中学校にて) (沼田市連携協議会授業公開一次案内通知について・授業検討会の持ち方について・5、6年通知表観点の表記について・予算について・授業公開に向けての指導案構想発表について)</p>
8月 19(水) 21(金) 25(火)	<p>沼田市教科別研修会外国語活動部会 (・英語教育強化地域拠点事業沼田市連携協議会の取組について・英語教育推進リーダー中央研修参加者による研修実習①：・単語や表現の学習・歌の活用)</p> <p>沼田市教科別研修会外国語活動部会 (・英語教育強化地域拠点事業沼田市連携協議会の取組について・これから求められる中学校英語教育について・英語教育推進リーダー中央研修参加者による研修実習①：・コミュニケーションを支えるための文法)</p> <p>25日(火) 沼田市教育委員会にて指導案検討(沼田東小授業公開に向けて)</p>
9月 4(金) 8(火)	<p>沼田市教育委員会にて指導案検討(沼田北小授業公開に向けて)</p> <p>群馬県立沼田女子高等学校授業公開 (第1学年 38名参加 指導助言：教育センター指導主事/高校教育課指導主事) 第5回沼田市連携協議会(授業公開後：沼田女子高校にて) (・第2回群馬県英語教育連絡協議会について・群馬県拠点校における授業公開参観希望について・予算について・今後の授業公開について・先進校の視察について)</p>
10月 7(水) 15(木) 16(金) 27(火) 30(水)	<p>利根教育事務所にて指導案検討(沼田中授業公開に向けて)</p> <p>利根教育事務所にて指導案検討(沼田東小授業公開に向けて)</p> <p>沼田中学校授業公開 (第1学年、50名参加 指導助言：教育センター指導主事/利根教育事務所指導主事) 第6回沼田市連携協議会(授業公開後：沼田中学校にて) (・予算で購入した備品の整理について・今後の授業公開について) 利根教育事務所にて指導案検討(沼田北小授業公開に向けて)</p> <p>沼田東小学校授業公開 (第5学年/第6学年 72名参加 指導助言：沼田市教育委員会指導主事/利根教育事務所指導主事/義務教育課指導主事) 第7回沼田市連携協議会(授業後：沼田東小学校にて) (協議：平成28年度予算の分け方について)</p>

11月 4(水) 17(火)	利根教育事務所にて指導案検討（沼田北小授業公開に向けて） 沼田北小学校授業公開 （第2学年／第3学年／第5学年 84名参加 指導助言：教育センター指導主事／沼田市教育委員会指導主事）
12月 9(水) 10(木) 11(金)	英語能力判定テストの実施（2年） 英語教育推進リーダー中央研修参加者による外国語活動研修実習② （・他教科等と関連した内容を取り入れた活動・授業指導案の作成・ALTとの打合せ） 英語教育推進リーダー中央研修参加者による英語科研修実習② （・教室英語・自己関連性・語彙、表現に係る言語活動） 第8回拠点内連携協議会（沼田東小学校にて） （・授業公開のまとめ・H27年度指導要録記入についての確認・アンケート実施について・予算について・第2回群馬県英語教育連絡協議会について・第2回英語担当指導主事会議について・平成27年度全国連絡協議会について）
1月 13(水) 20(水) 21(木) 27(水)	英語教育推進リーダー中央研修参加者による英語科研修実習③ （・「読むこと」に係る言語活動・「聞くこと」に係る言語活動） 第2回英語担当指導主事会議 沼田市教委指導主事 参加 第9回拠点内連携協議会（沼田北小学校にて） （・事業報告書 成果と課題の発表と提出 ・アンケート実施について・第2回群馬県英語教育連絡協議会について・第2回英語担当指導主事会議について） 平成27年度全国連絡協議会 沼田市教委指導主事 参加 英語教育推進リーダー中央研修参加者による外国語活動研修実習③ （・ALTとの打合せ・絵本の活用）
2月 10(水) 24(水)	第2回群馬県英語教育連絡協議会 第9回拠点内連携協議会（アンケート結果より次年度の研究内容の検討）
3月 19(木)	第10回拠点内連携会議（次年度の研究内容の確認）
【その他の取組】※あれば記入	